

## 平成30年第1回那須烏山市議会3月定例会（第5日）

平成30年3月6日（火）

開議 午前10時00分

散会 午後 4時15分

## ◎出席議員（17名）

1番	相馬正典	2番	小堀道和
3番	滝口貴史	4番	矢板清枝
5番	望月千登勢	6番	田島信二
8番	渋井由放	9番	久保居光一郎
10番	渡辺健寿	11番	高德正治
12番	佐藤昇市	13番	沼田邦彦
14番	樋山隆四郎	15番	中山五男
16番	高田悦男	17番	小森幸雄
18番	平塚英教		

## ◎欠席議員（なし）

## ◎説明のため出席した者の職氏名

市長	川俣純子
副市長	國井豊
教育長	田代和義
会計管理者兼会計課長	滝田勝幸
総合政策課長	両方裕
まちづくり課長	佐藤博樹
総務課長	福田守
税務課長	水上和明
市民課長	佐藤加代子
福祉事務所長兼健康福祉課長	稲葉節子
こども課長	神野久志
農政課長	菊池義夫
商工観光課長	石川浩
環境課長	薄井時夫

都市建設課長

小田倉 浩

上下水道課長

佐藤 光明

学校教育課長

岩附 利克

生涯学習課長

柳田 啓之

文化振興課長

糸井 美智子

◎事務局職員出席者

事務局長

水沼 透

書記

菊地 静夫

書記

塩野目 庸子

○議事日程

日程 第 1 (議案第1号～第9号) 平成30年度那須烏山市一般会計・特別会計・  
水道事業会計予算について ※質疑～委員会付託

---

○本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

[午前10時00分開議]

○議長（渡辺健寿） おはようございます。

傍聴者には早朝よりお出かけいただきまして、ありがとうございます。

那須烏山市議会3月定例会第5日目であります。

ただいま出席している議員は17名全員です。定足数に達しておりますので、ただいまから会議を開きます。

本日の議事日程はお手元に配付のとおりであります。

---

◎日程第1 （議案第1号～第9号）平成30年度那須烏山市一般会計・特別会計  
・水道事業会計予算について ※質疑～委員会付託

○議長（渡辺健寿） 日程第1 議案第1号から議案第9号までの平成30年度那須烏山市一般会計予算、国民健康保険特別会計予算、熊田診療所特別会計予算、後期高齢者医療特別会計予算、介護保険特別会計予算、農業集落排水事業特別会計予算、下水道事業特別会計予算、簡易水道事業特別会計予算、水道事業会計予算の平成30年度当初予算9議案を一括して議題といたします。

本件については、去る2月27日の本会議において提案理由の説明が終了しております。

直ちに質疑に入りますが、所管の委員会に関する事項は、委員会審査において質疑されるようお願いいたします。

また、議会運営に関する申し合わせにより、質疑の持ち時間は答弁を含めて30分以内としております。30分を超えましたら終了を求めますので、御了解願います。

質疑、答弁は簡潔明瞭にされるよう、この際申し添えます。

それでは、これより質疑に入ります。

1番相馬正典議員。

○1番（相馬正典） おはようございます。では、1番の相馬からまいります。

まず、概要版から伺います。

ページ10ページでございます。都市建設課さん、新規事業として、清水川せせらぎ公園整備費遊具設置工事について1,000万円、内容についてどのような整備を予定しているのか伺いたいと思います。

続きまして、概要版9ページ、農政課、新規事業として、八溝そばブランド力向上支援事業80万円、11ページ、八溝そば広域型推進助成30万円について、助成の内容について、どこへどのような助成をするのか、これを伺いたいと思います。

3番目が、やっぱり概要版の11ページでございます。商工会観光課、新規事業でDC関連PR経費、まちなか観光案内経費、山あげ会館イベント実行委員会交付金489万円を計上してありますが、山あげ会館イベント実行委員会というものはどういうものなのか教えていただきたいと思いますのと、同じ10ページに同じ内容で634万円が計上されておりますが、差額の145万円についてどのような内容なのか教えていただきたいと思います。

続いて、今度、予算書に行きます。63ページです。ここに労働費がありまして、これも継続なんですけど、雇用対策事業費36万円というのがあります。恐らくこれは雇用創造協議会への経費だと思うんですけど、たしか雇用創造協議会は今年度で一応終了なのかなと認識しておったんですけども、平成30年度の事業については、どのようなことになっているのか伺いたいと思います。

続いて、同じ予算書、65ページ、農林水産業、これは継続です。とちぎ食の回廊づくり推進事業218万5,000円、この内容について伺いたいと思います。また、去年はこれより70万円多かったです。288万5,000円、70万円減額になってはいますが、減額の理由について伺いたいと思います。

続いて、同じく予算書の89ページです。教育費、これも継続事業で、グローバル人材育成事業費についてです。1,248万4,000円、これは英語ビレッジ構想の一環としてなすから英語塾が平成27年から開校されています。これまで何人の英語のガイドを養成し、どのような活動に参加しているのか伺いたいと思います。

続いて、同じく89ページに教育費、文化振興課だと思うんですけども、継続でジオパーク構想推進事業、990万7,000円、この中に烏山築城600年記念事業、多分184万円が含まれていると思うんですけども、純粋にジオパーク構想というものに幾ら使うのか、予算についてお願いしたいと思います。

同じく予算書の93ページです。教育費、これも継続しているんですけども、南那須武道館管理費、124万7,000円、たしか土地の賃借料だったと思うんですけども、以前に平成30年度に解体するような話を伺っていたと思うんですけども、またことしも同じように賃借料が計上されています。平成29年度における協議の経過と平成30年度の対応について伺いたいと思います。

以上8点です。よろしく申し上げます。

○議長（渡辺健寿） 小田倉都市建設課長。

○都市建設課長（小田倉 浩） それでは、私から、1番目の項目で予算の概要版10ページ、清水川せせらぎ公園整備費遊具設置の内容の説明をします。

こちらは既存の20年過ぎている木製のシステム遊具がございまして、これがかなり経年劣

化により危険な状況になっておりますので、その既存のシステム遊具の更新の費用でございます。

以上でございます。

○議長（渡辺健寿） 菊池農政課長。

○農政課長（菊池義夫） 2点目の概要版の中の9ページ、八溝そばブランド力向上支援事業80万円についてお答えいたします。

助成の内容について、どこへ幾ら助成するかという御質問でございますが、これまでは市内の事業者そば店等に交付いたしておりましたが、拡充をするということで、市外事業者にも八溝そばを原材料として販売する市内生産者に交付いたします。単価につきましては、既存の要綱と同じように玄そば1袋当たり1,000円、そば粉につきましても同じく1,000円ということで予定しております。拡充分は約300袋当初予算を計上しております。

関連しますので、もう一点、4点目の予算書の農林水産業費65ページのとちぎ食の回廊づくり推進事業費でございますが、70万円の減額の部分でございますけれども、減額の理由につきましては、この事業は、協議会の事業とそばまつりの事業と2つございます。

まず、減額の理由は、県の補助金が3年目になります。その補助金がまず減額となったということで、1市3町で協議会を運営しておりますので、その分、各市町の負担金を見直した結果、本市70万円減額ということで、総事業費につきましては前年度と同様の400万円程度でございます。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 石川商工観光課長。

○商工観光課長（石川 浩） 概要版11ページになります。DC関連のものでございますが、まず、山あげイベント実行委員会につきましては、予定しておりますのは4月28日に山あげ会館の前で今回の工事が終わった記念、お披露目といいますか、リニューアルということで、イベントを予定してございます。構成メンバーとしましては、市観光協会、市民団体、また、おはやしの会とかに協力をお願いして実行する予定で、50万円につきましては、その宣伝費、警備費等の経費でございます。

また、DC関連の差額についての御質問でございますが、489万円はDC関連の予算としまして、るるぶの増刷、また下野新聞等へのPR費とJRえきねっとの利用料等々がございまして489万円です。そのほかの差額につきましては、PR関係の旅費、あと8団体への負担金、その8団体につきましては、予算書108ページに載っているところでございます。その他消耗品等々の経費でございます。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 柳田生涯学習課長。

○生涯学習課長（柳田啓之） では、予算書89ページ、グローバル人材育成事業中の英語ビレッジ構想についてお答えいたします。

なすから英語塾につきましては、御指摘のとおり、平成27年度から実施しておりますが、観光ガイドクラスにつきましては、平成28年度から設置して現在に至っております。何人養成したかでございますが、現在、鋭意養成中でございます。毎期年度ごとに修了ということにはしていますが、完全なガイド認定というのはまだ行っておりません。

内容といたしましては、1年目、英語力の向上に尽力したところなんです。ガイドとしての資質ということがございまして、29年度について、那須烏山市の歴史、文化、これは主に山あげ行事について座学の時間を設けたり、あとは専門の方に来ていただいてガイドとして必要な接遇についての授業なんかも行っておりまして、鋭意養成をしているところでございます。あと、実践、現地研修として、日光方面に出かけて実際にガイドをしている方について回ったりとか、お話しを直接聞いたりとかということでやっておるところでございます。何人ということですので、受講者数ですが、平成28年度が20名、29年度今年度が25名でございます。全部の方、前年の観光ガイドクラス及び上級クラスに在籍していた方が継続して学んでいただいております。

同じく予算書93ページ、南那須武道館の件についてなんです。御指摘のとおり、平成30年度解体を予定してございます。現在29年中に実施設計しております。これが3月に完成いたしますので、解体工事費が未計上なのは、実施設計の額が決定していなかったためでございます。地権者とは29年度中にも面談をいたしまして、平成30年度までの契約として、31年度以降は契約しないことで了承は得てございます。

その後の措置につきましては、再度協議させていただくこととしております。解体工事費につきましては、30年度の9月補正で計上する予定でございます。その間有利な交付金等を探しまして、なるべく市の負担を軽減したいと考えてございます。並行して跡地の処理については公有財産管理委員会に諮りまして、最善の処置をとりたいと思っております。

○議長（渡辺健寿） 糸井文化振興課長。

○文化振興課長（糸井美智子） 私からは、ジオパーク構想推進事業費についてお答えします。

純粋なジオパーク構想にかかる費用ということですが、基本的には烏山城を重要なジオサイトということで捉えておりますので、そういうことで600年記念事業もここに載せてありますので、そこだけ御了解いただければと思います。600年記念事業に直接的にかかる費用が184万7,000円となっておりますので、その残りの806万円がジオ構想にかかる費用

ということになっております。

○議長（渡辺健寿） 石川商工観光課長。

○商工観光課長（石川 浩） 労働費の関係で答弁が漏れまして、大変申しわけございません。予算書63ページになります。雇用対策事業費36万円でございますが、6万円は旅費でございます。30万円につきましては、雇用創造協議会の交付金ということで、国からの交付対象経費にならない、交付外の経費につきまして対応するための30万円ということでございます。

雇用創造協議会につきましては、第2期目に入っております、平成28年度から3年間ということで、平成30年度が最終年度となります。1月末現在で有効求人倍率が1.6にまで、過去ないような大変いい状態ございまして、逆に、雇用創造協議会としては求職者が売り手市場ということで、今現在、事業を進めているところでございます。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 1番相馬議員。

○1番（相馬正典） ありがとうございます。おおむね了解いたしましたけれども、先ほどの農政課のそばの関係なんです、今伺いましたところ、市外業者に販売する生産者とおっしゃったんですけれども、市内業者に販売しても同じなのかなと、1,000円で同じということなのかなというのを確認したいと思います。

それから、これは、そば生産組合員とそうでない方というんですけれども、皆さんそれぞれ公平にやるということによろしいのか、伺いたいと思います。

それと、グローバル人材育成事業なんですけれども、今いろいろ説明を受けましたが、平成30年度の取り組みについて、29年度とは違うことがあるのであれば伺いたいと思います。

それから、ジオパーク構想なんですけれども、来年度30年度におけるジオパーク構想の取り組みがあれば伺いたいと思っています。

以上、2回目です。よろしくお願いいたします。

○議長（渡辺健寿） 菊池農政課長。

○農政課長（菊池義夫） 八溝そばの再質問の件でございますが、市外事業者と市内生産者の定義でしょうか。どういう方が対象になるかという形でよろしいですか。一応規定上は市外事業者につきましては、那須烏山市以外の市町村に所在し、製造業、または飲食業を営む事業者ということで、定義づけしております。

また、市内生産者につきましては、市内に住所を有し、そばを生産する農家、ですから個人でも任意の組織でも対象となります。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 柳田生涯学習課長。

○生涯学習課長（柳田啓之） なすから英語塾観光ガイドクラス関係について答弁いたします。

平成29年度と平成30年度の違いにつきましては、観光ガイドクラスに限らせていただければ、2年間やってきたことを生かしまして、ガイドとしてやっぱり必要な資質、市の観光、文化関係の知識も必要ですし、それから接遇等、それから相手に接する接し方等の向上を目的にさらに実施して、あわせて、修了した方の今後の活動に際してフォローする方法等を検討しているところでございます。よろしく願いいたします。

○議長（渡辺健寿） 糸井文化振興課長。

○文化振興課長（糸井美智子） ジオパーク構想の平成30年度の取り組みということでございます。こちらにつきましては、昨年の認定申請の結果を受けまして、基礎固めということをも最重要課題ということで、ジオパーク活動の基本である人材育成と郷土愛醸成を図るための市内児童生徒等への継続的な学習機会の提供と、それからジオガイドの養成及び認定制度の確立などをメインとした取り組みと考えております。

○議長（渡辺健寿） 2番小堀議員。

○2番（小堀道和） 何点か質問いたします。

予算書ではなくて、概要にかなり細かく載っていますので、こちらから質問いたします。

まず、2ページで、ページに沿って質問しますけれども、賑わいあふれるまちづくりの中の雇用の確保の中で、地域おこし協力隊についてですけれども、また新たに追加することなんですけれども、特にこれは成功してほしいので、協力隊の皆さんには、この予算がなくても、ぜひ、これだけの効果があるので、町の予算、市の予算で確保したいという活動になってほしいと思うんですけれども、その辺の市側の指導というか、力の入れぐあいはどうなのかなというのをお聞かせいただきたいと思います。

それと、農林水産業の振興のところ、農業委員会とか、これも新しく制度が立ち上がるわけですが、やはり一番つらいのが後継者がいないということですね。この辺をどうするかという問題に取り組んでほしいと思うんですけれども、現実的に後継者は各家庭ではないので、公社とか株式会社とか、そういうところまで踏み込んでいかないと、荒地がふえるだけなのではないかなと思うので、この辺の方策とか、その辺をどういうふうな課題としてこの農業委員の人たちに与えるかというのを聞かせてください。

次の3ページの中で、定住促進のところ、空き家バンクの件ですけれども、これが書いてありますけれども、空き家バンクは、大体登録されると結構新しいお客さんが買ってくれるというのがわかっているんですけれども、登録がなかなか進まない、これは空き家になって、この

前市長も話をしましたけれども、どうしようもなくなってからだ空き家バンクにならないということなんですけれども、実際の空き家になっている方の意見を聞くと、中をきちんとしなきゃいけないとか、整理しなきゃいけないというところ、これがかなり大きなハードルの高さになってしまっているというのが現実なんじゃないかと思うんですけれども、成功している町なんかを見ると、そこまで市が踏み込んで業者を紹介してあげるとか、そうしてやると結構進んでいる例がたくさんあるので、この辺をどう考えるのかというのをぜひお聞かせください。

それと同じ3ページに、市民と共に築く持続可能なまちづくりの中に、市民の地域コミュニティ強化と協働のまちづくり、この中で、いろいろな高根沢町とか、高校生を使ったりして、お客様を呼び込むとか、こういう活動に力を入れているわけですが、お客様の対象を首都圏ばかりではなくて、ぜひ海外まで、協力隊も含めて、こういう見方がとても大切なんじゃないかと思うんです。海外のお客さんが来ると、必ずメディアは飛びついてくれるので、相当な効果が期待できるんですけれども、そういう活動になっていないので、ぜひ高い見地からこれを検討してほしいなと思うんですけれども、これについての見解をお聞きしたいと思います。

それと、9ページに新規就農総合支援事業費というのが農林水産業の中に出ています。435万円ですか。この辺がなかなかうまくいかないというか、地味にはやっているんですけれども、市独自の拡大就農の研修費で新しい取り組みというのがあるのかどうか、要するに従来のままだと、進展性がないのかなというのは感じていると思うんですけれども、その辺をどのように考えているのかをお伺いしたいと思います。

それと、9ページの一番下に、元気な森づくり、この予算が入っていますけれども、これもずっといろいろな活動が続けられてきたんですけれども、ことし、これも新たにこんなものに取り組みでみたいという、そういう戦略的なものがあるのかどうか、この辺の見解をお聞かせください。

それと、10ページ、商工業の振興の中で企業誘致の事業費の予算がかなり大幅に増になっています。具体的には1億3,641万6,000円が去年で、それからことしは1億9,260万円、大幅な増になっていますけれども、具体策はどんなことを考えていて、その効果が期待できているのか、その辺もお聞かせください。

それと、11ページのふるさと応援寄附金の事業費が載っています。市民と共に築く持続可能なまちづくりですが、これは346万8,000円、そんなにふえていないんですけれども、昨年ふるさと応援寄附金、これはかなりふえましたよね。いろいろな返礼品も工夫して、従来よりもどんどんふえている感じがするんですけれども、予算はかなり消極的な予算で随分謙虚だなと思うんですけれども、これがふえてくるとほかの町の例を見ても、商品に対するクレームというのもふえることが予想されるんですけれども、これを調べると、クレーム者

への対応によってさらに一生懸命の応援者になってくれる例と、もう二度とやるもんか、そういう反対のお客さんになってしまう可能性もあるんですけども、大体、納税してくれる方は、この町の出身とか、そういう者が多いんですよ。その辺のことをどう考えているかをお聞かせいただいて、クレームを言ってくれたお客様を絶対応援者にしてしまうというような取り組みを聞かせていただければと思います。

それと、17ページに、総務費の中に平和事業費というのがありまして、昨年150万円ほどとっていたんですけども、ほとんどゼロになっているんですけども、これが何かを教えてください。

それと、最後に21ページ、畜産関係の振興費が入っていますけれども、昨年よりも大幅に4,200万円という大きな値が入っているんですけども、これは何かというのを教えてください。

以上、何点かわかりませんが、よろしくをお願いします。

○議長（渡辺健寿） 佐藤まちづくり課長。

○まちづくり課長（佐藤博樹） それでは、概要書2ページ、地域おこし協力隊の関係でございます。

事業費の中身というよりも、市としての考え方、そんな点だったと思いますので、現在1期生、ことし2月23日に1年5カ月の報告会を実施しております。それぞれの目的に向かって進みつつあります。市としましては、彼らに寄り添ってどのような支援ができるのか、また一緒に市の未来をつくり上げていくというようなところは一生懸命考えていきたいと思っております。

そんな中で、マネジメントの関係は、一部、とちぎユースというNPO法人に研修等を含めて任せている部分がございますが、市としましては毎月1回、進行管理をしまして、それぞれの現時点の課題について潰しながら考えて寄り添っている状況でございます。したがって、今後につきましても、彼らがあくまで外から来たという弱い点がございますので、市としてよりも、一市民として、職員として、寄り添って彼らの活動を支えていきたいという考えのもと、まちづくり課の職員は取り組んでございますので、その辺で市の考え方、力の入れようというところを察していただければと思います。

それと、3ページの空き家バンクの件でございますが、空き家バンクにつきましては、登録があるとすぐさばけると結構流通がよい制度になっております。常時10件程度の登録情報になってございますが、それには入ってくるとすぐさばけるといような状況がございます。その中で、議員から御指摘のあった、空き家があるんだけど、なかなかどうしていいかわからない、または、それを手放すのにリフォーム等のお金がかかることから、ちょっと手間がか

かって大変だというようなところで、なかなかその利活用が進まない状況が市の中ではあるかと思いますが、現在まちづくり課におきましては、広報お知らせ版を通しまして定期的に御案内をしているところでございます。

また、市内の宅地宅建取引業、不動産取引業関係の方には、そういった情報があれば御紹介したり、市としては、市民からの相談があれば常にそういう業者を通しながら相談している状況でございますので、今後につきましては、一般質問等々でも空き家計画等がございましたので、そのような中でもどのような形で空き家がうまく有効活用できるか探りながら研究してまいりたいと考えてございます。

以上であります。

○議長（渡辺健寿） 菊池農政課長。

○農政課長（菊池義夫） ただいま小堀議員からたくさん御質問いただきましたので、順に回答させていただきたいと思っております。

1点目の概要版の2ページにございます農業委員会の活動でございます。5月22日から新農業委員の体制がスタートいたします。今年度から推進委員が新たに25名加わるということで、市でも期待するところは多くございます。

まず、議員がおっしゃる後継者の育成の問題等々、農業の抱える課題がたくさんございます。その中で今期待しておりますのは、中山議員にもお答えいたしましたけれども、一番は、推進委員が地域で多く話し合いを持っていただき、農家の意見を吸い上げる、これからうちはどういうような農業を続けていけるのか、いけないのか、農地を預けなきゃいけないのかとか、そういう課題をまず話し合いの場に出していただくということで、私の考えていますのは、集落ごとに農家ごとのカルテをつくりたいなと思っております。このうち5年後、10年後どうしようもならないというのを、やはり地域ごとに把握しなきゃいけないと思っております。そういったところを担っていただきたいなというのが1点ございます。

国から示されていますのは、農地の集積、集約化でありますとか、遊休農地の発生防止とか、解消とか、5つぐらいの活動内容がございますけれども、いっぱいはいできないと思っております。ですから重点的に行いたいのは、集落座談会を推進委員が中心になっていただいて、関係機関と集落に入るといったところから始めていきたいなと思っております。そして、いろいろな課題が出てきたところで一つ一つ解決していくということを計画しております。

今、集落営農組織というのが8団体ございます。法人は4団体になりました。年々推進ができています。まだまだ集落で活動組織がないところにどンドン力を入れて、てこ入れしていきたいなと行政側では思っております。そのかなめとなるのが、新農業委員さんであり、推進委員と期待しているところでございます。

2点目の概要版9ページの新規就農の事業でございます。435万円という計上予算でございますが、市単独の取り組み、新しいものはあるのかという御質問でございますが、昨年から市の単独事業といたしまして始めましたのは、農業後継者として地元に残って農業を担っていくという方々について、多額の施設整備が必要な場合には、今年度補正で計上したところでございます。そういった支援、金額的な支援、それから去年始めました親元就農、これをどんどん推進したいなど、やはりほかから新規参入も必要ですけれども、足元の後継者を育てていくということも重要だと思ひまして、市単独の事業ではそういった育成、さらには農業を志す研修、そういった研修費にも助成をするということで、今年度から始めているところでございます。

実績としましても、平成29年度新規認定、いわゆる親元就農の祝い金等も2件出ております。そういった状況でありますので、さらに継続して30年度も推進してまいりたいと思っております。さらに国の新規就農の次世代を担うという補助金がございます。現在2件ほど活用しております。そういった実績の方も、今後継続的に5年間交付を国からいただけますので、さらに新規者も募っていききたいと思っております。

3点目は、元気な森づくりの関係で、同じ9ページに計上しておりますが、新しい取り組みはあるかという御質問でございましたが、この制度は今年度で一区切りになります。県の元気な森づくり県民税を活用して1人700円だったですかね、それを活用して事業をやっております。県はまたさらに10年間延長するということが決まりましたので、予算上は新規も見込み5年間継続している地区も、今度は管理作業という形で、助成金は若干減りますが、整備を行った5地区がございます。これらの地区は継続的に支援してまいりたいと思っております。

さらに管理作業というのが18地区ございましたので、その地区も終わるところもありますけれども、継続的に推進したい、国でも、平成36年から森林環境税の検討を今やっている最中でございますので、そうしますとそういった助成金の活用も地域で活用していけるような支援はしていきたいと思っております。

最後に、畜産事業、21ページ、4,246万5,000円の予算計上でございます。昨年よりも当初予算では大幅に増額ということになりましたが、内容につきましては、一番大きいのが国の事業で、畜産担い手育成総合整備事業3,937万円計上しております。これは、5カ年計画で栃木塩那地区が広域的に取り組んでおります畜産の施設整備等の予算でございます。早期完成を見込んでおりますので、優先的に予算が配分されたものでございます。

さらにもう一つ、県が今進めています新食肉センターの整備補助金というのがございます。3年間補助して合計810万円助成金、負担金がございますが、ことし2年目ということで、284万6,000円食肉センターの整備に負担金が計上されております。

もう一点は、過去に整備いたしました八溝西部開発事業団、畜産団地の環境保全ということで、水質検査の予算を毎年計上している予算が24万9,000円でございます。合計で4,246万5,000円の予算でございます。よろしく申し上げます。

○議長（渡辺健寿） 石川商工観光課長。

○商工観光課長（石川 浩） 概要版10ページになります。企業誘致事業費でございます。1億9,264万3,000円を計上させていただいておりますが、昨年と比べまして5,600万円ほど増額になっております。要因としましては、企業立地奨励金の増額でございます。内容的には、太陽光発電所の新規の交付が2件、あとのほか御存じのような旧江川小学校に入った工場とそのほか南那須の工場の新規交付が2件ということで、合計で5,600万円ほどふえてございます。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 両方総合政策課長。

○総合政策課長（両方 裕） 総合政策課は、2点ほどございました。

まず最初に、概要書の3ページの下の段の継続事業としまして、JR烏山線沿線まちづくり推進事業費400万円でございます。こちらにつきましては、平成29年1月に、高根沢町と栃木銀行、それとJR東日本大宮支社で協議会を設立いたしましたその事業費ということで、こちらは協議会に対する負担金でございます。同額を高根沢町も負担するというので、おおむね800万円程度の30年度は事業費で行うということでございます。

事業内容につきましては、JR烏山線沿線の地域の魅力ある資源を磨き上げ、新たな価値を見出しながら交流人口の増加を図った地域一体となったまちづくりを進めるということでございます。

そういうことございまして、基本的にはJR烏山線沿線ということで、主なターゲットとしましては、議員が御指摘のように、現在首都圏を主な対象としてございます。そういうことで、交流人口増加とか、そういうのを図った目的になってございます。

御指摘の海外の方も視野に入れて事業の展開を図った方がいいかということにつきましては、まずは3カ年度の事業計画を立てて、平成28、29、30年度は一応推進交付金を入れまして、地方創生の、3カ年度になりますので、海外のそういった誘客とか、そういうものにつきましても、今後協議会の中で諮って、プロモーション活動等を行っていくことは検討を進めたいなと思っております。

続いて、2点目でございます。11ページでございます。ふるさと応援寄附金事業費346万8,000円でございます。今回は、歳入は当初予算のスタートは寄附金は500万円ということで、寄附金ですので、スタートさせていただきます。3月補正で増額させていた

いただきましたが、今年度は440件程度で1,310万円ということであります。ただ、今年度大口寄附が1件ございましたので、スタートはそういうことで500万円スタートということにさせていただきたいと思っております。

それで、クレーム等の御質問がございましたが、今年度はほとんどありませんが、年末に寄附いただいた方の返礼品の届く時間が1カ月ちょっとぐらいかかってしまったということで、御指摘をいただいた件がございました。ちょうど年末にかかったということもありますし、特に最近クレジットカードで決済できるようになってから、ほかの自治体とも比較されるようなところもございまして、できるだけ速やかなお礼の手紙とか、返礼の送付に努めているところでございますが、議員御指摘のように、そういったクレームをくださる方の御意見は大変貴重でございますので、そういう方の意見こそ重要視して、今後とも有効な応援寄附金になるような事業展開を図ってまいりたいと思っております。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 福田総務課長。

○総務課長（福田 守） 私の方では、17ページの平和祈念事業でございますが、こちらにつきましては、中学生の広島平和記念事業の派遣の費用が主なものでございました。こちらについては平成30年度から教育委員会でやるということになりましたので、概要書22ページの教育費の小中学生の派遣事業費にこの減額分がそのまま載っているということでございます。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 2番小堀議員。

○2番（小堀道和） 大体心意気のようなもののお答えがあったので、時間の関係もあって、さらに進めてほしいなということにしまして、再質問1点だけ確認したいのは、1点だけ要望ですけれども、5番のお客様を呼び込むという烏山線沿線、この中で外国のお客様をという話をしましたけれども、せっかくなすから英語塾とか、そういう人たちを育てているので、それらを活用するとか、そういう戦略もぜひやってほしいなと思うので、コメントを一言お願いします。

○議長（渡辺健寿） 両方総合政策課長。

○総合政策課長（両方 裕） 御指摘につきましては、高根沢町との協議会事業ということでありますので、その協議会の中で今後方向性をさらに拡大していくことにつきましては、検討をさらに進めていく価値はあるのかなと考えてございます。

○議長（渡辺健寿） 2番小堀議員。

○2番（小堀道和） 今回いろいろな質問しましたけれども、特に農業の育成とか、その辺

よろしくお願ひしたいということをお願ひして終了いたします。

○議長（渡辺健寿） 3番滝口貴史議員。

○3番（滝口貴史） それでは、質疑させていただきます。早速ですが、お願ひいたします。

学校教育課に質問させていただきます。まず、英語教育推進事業100万円、83ページ、英語検定の助成費として100万円が計上されていますが、級ごとの受検者、合格者、またこの取り組みに対する保護者からの意見があれば説明を伺います。

次、サタデースクール事業費、同じく83ページ、サタデースクールに申し込んだ児童生徒のうち今年度皆勤賞はどのぐらいの割合か、また、サタデースクール閉校時に保護者に対するアンケート調査をしたと伺いました。その結果について概要の説明を伺います。

次に、同じく83ページ、烏山中学校・南那須中学校スクールバス運行費について伺います。現在対象となる生徒はどのぐらいいるか、またその対象地域でやむを得ずというか、自主的にバスを使わず自転車で行っている子供の割合、それに対する教育長の所見をお聞かせ願ひたい。

安心安全とってバスを導入したのに、自転車で通学していて、もし事故に遭ったらどのような対処をするのか。遠いけれども、同じようにそれは安心安全ということでバスを導入したことが余り意味がなくなっているの、そこに対する所見をお聞かせ願ひたいと思います。

次に、高等学校教育振興事業費700万円から1,000万円に増額しました。42.9%増、烏山高校の通学補助だと思うんですが、300万円増の理由は。これは私が前々から言っているように、市内の子供へも補助してくれるように300万円増額したんだという理解でよろしいのかということでお聞かせ願ひます。

これは子供たちの保護者は知らないことだと思うんですね。市内の親たちは、烏山高校に通学補助をしているなんていうことは、市内の保護者は何人か、僕も今回質問するに当たって聞いてまいりました。そんなことをやっているのという意見しか出ませんでした。何でほかの市町村に行っている、市内の子供が税金を払っているのに、その人たちを補助するのか、これはおかしいのではないかという市民の意見を真摯に受けとめていただひて答弁願ひたいと思います。

次、生涯学習課に質問します。若者交流事業費138万2,000円、予算書89ページ、若者交流事業としてこの金額が計上されていますが、若者交流事業交付金やとちぎ結婚支援センターの運営負担金として支出されていると思います。その他市独自の取り組み内容とかを予算については説明願ひます。

次、公民館費1,271万5,000円、予算書91ページ、プラス体育施設費。生涯学習課は公民館や体育館を初め非常に多くの公共施設を有しており、公民館費と体育施設費を合計した施設費は9,392万4,000円にも及んでいる。昨年度策定された公共施設等管理計画に

おきましては、生涯学習施設の今後の対応が示されており、今年度は何らかの協議が行われたものと思われま。どのような協議を行い、その結果どのように予算に反映されましたか、御説明を願います。

次に、文化振興課に質問いたします。予算書の89ページ、先ほど相馬議員も質問しましたが、それより大きい話で、昨年12月に、次年度平成30年度には文化財保護法が改正され、歴史・文化基本構想を作成しなければならないと12月の質問で一般質問させていただきました。それに対する予算はどこに計上されているのか。これを作成しなければ、これから先、補助金が受けられなくなる可能性があるかと指摘させていただきました。これはどこに入っているのかお伺いいたします。

次、商工観光課、ユネスコ無形文化遺産活用推進事業費603万1,000円、71ページ、GPS機能を利用した山あげ祭丸わかり情報システムの強化を図るといような計画ですが、どのような計画か教えてください。お願いいたします。

108ページ、いかんべ祭の補助金が皆減となっていますが、これに対する取り組みはどのような見込みなのか教えてください。

環境課、環境基本計画策定事業費495万3,000円、61ページ、昨年度も環境基本計画策定事業費として、動植物調査費とか等に194万5,000円を計上しています。合計で689万8,000円も策定費で計上してあり、ほかの策定費としても大きな額であると思うんですが、どのような内容の策定を考えているのか御説明願います。

上下水道課に1点だけお願いしたいんですが、現在単独槽から浄化槽へどんどんかえていく推進をしていると思うんですが、そのような進捗率とか、お金を含めて予算も出ていますけれども、どのような合併浄化槽への移行を推進しているかお伺いいたします。

以上、お願いいたします。

○議長（渡辺健寿） 岩附学校教育課長。

○学校教育課長（岩附利克） それでは、お答えしたいと思います。急な質問で、数字的なものが多かったものですから、数字的なものは今手元には余りありませんので、後ほど御報告させていただきたいと思いますが、まず、英検の事業の実績でございますが、今平成29年度はまだ実際には集計されておられません。28年度につきましては、行財政報告書で報告されているかと思いますが、簡単に申し上げますと、5級が72名のうち53名合格、4級が145名のうち87名の合格、3級が120名のうち44名の合格、準2級が38名のうち14名が合格、2級が8名のうち3名が合格、準1級は2名おりましたけれども、合格者なしということでございます。

サタデースクールにつきましては、全体の数字は平成29年度は約46%ほどの参加という

ことになっております。ただ、皆勤賞の人数とかはまだ把握しておりませんので、後で皆勤者の人数については報告させていただきたいと思っております。

それと、アンケート結果でございますが、これもまだ2月が終わったばかりで今ちょうど集計中でございますが、前年度の例を申し上げますと、保護者のアンケート調査などについてはほとんどが大変よかったというような、9割ぐらいでよかったというのは報告は受けております。また、児童についてもためになったというような意見が大多数を占めていたというような状況になっております。

それとスクールバスですけれども、中学校でスクールバスの運行がなされているんですけども、自分の都合で自転車という方のニーズとかについても、数字的なものは今つかんでおりません。ただ、実際には自転車通学は、部活動などを行っているお子さんたちは、結構自転車で帰るというようなことが多いかなと思っております。

それと、高等学校の支援でございますが、今年度1,000万円ということで、前年度700万円ということで、300万円ほどふえているということでございますが、実はこれは平成29年度の実績で1,400万円ぐらい支払いをしております。ということで、大幅に30年度については今までと同じことをしても1,000万円はいくんであろうということで、別に市からほかの烏山高校以外の人たちに補助するというので入れたものではございません。ということで、平成30年度から烏山高校の支援につきましては、今までは5,000円を超える部分については市の補助を出すということでございましたが、30年度の1年生から7,500円を超える生徒に対しての支援をするということになっております。

以上でございます。

○議長（渡辺健寿） 田代教育長。

○教育長（田代和義） スクールバスの件で教育長の見解をとということでしたので、お答えいたします。

ただいま学校教育課長からお話をした状況のとおりでございます。部活動その他、または家の方針として、スクールバスではなくて自転車で通わせたいというようなことで通っている生徒が実際に出てきております。スクールバスについては、議員がおっしゃるとおり、子供たちの安全な通学、下校を保障するためにということで運行しているわけですが、ただ、強制的に全部乗れということはできかねますので、親の方針その他、また部活動ということで自転車に乗る場合には、安全を確保するようにというような指導において現在実施している、ただ、それをやめて全部バスにしろというのは、学校関係、または委員会として強制はできかねると思っております。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 柳田生涯学習課長。

○生涯学習課長（柳田啓之） お答えいたします。

2点ほどあったかと思しますので、まず最初に、若者交流事業費につきましてなんですが、若者交流事業費という名目で、若い人たちの出会いの場の創造ということで実施しております。主なものについては、那須烏山市の結婚相談所のイベント費、それから結婚相談所は那珂川町にもございまして、現在、地区の連絡協議会というのをつくっております、そちらでのイベント1回、それから市内横枕青年団さんで大体夏やっていらっしゃる出会い創造のイベントに交付金として出している、それから農業の若い方たちの団体のカッシーレという団体があるんですが、そちらでもそういった機会創造のイベントをやっているというので、そちらに交付金として出しているというのが主なものでございます。あとは結婚相談員さんへの年間報酬、それからとちぎ結婚交流センターの各市町で負担金ということで出ておりますので、そちらにお金を出しておるところです。

2点目といたしまして、公民館及び保健体育施設、そちらの公共施設関係の総合管理計画に基づく統廃合ということでございますが、公民館につきましては、平成29年度に、大変申しわけございませんが、七合地区におきまして自治会長さん方と1回目の意見交換会を実施させていただいております。それについては統合するとか、廃止するというのではなくて、そういう流れに来ているんですがということで、地元自治会さんの御意見、御要望等、それから、どうしていくのが一番いいかということで、意見の交換会は1回っております。そのほかについてはまだ進んでいないのが実情ですが、総合管理計画に基づいて個別計画を作成することにしておりまして、そちらの個別計画の策定の準備を今進めているところでございます。

社会体育施設につきましても同様でございます。ただ、社会体育施設については、市長が常々申しておりますように、グランドデザインにおいてどこに何を配置するというのもございますので、うちでは一応希望としては個別計画をつくりたいなと思っておりますが、御相談しながら進めていく予定でございます。大変申しわけございませんが、現在のところどの体育館をなくして、どこを残すということは明確にはまだできておりません。御了解願いたいと思います。

○議長（渡辺健寿） 糸井文化振興課長。

○文化振興課長（糸井美智子） 御質問の歴史文化基本構想計画につきましては、私ども文化振興課の予算を総括しているのが89ページにあります社会教育総務費の中の芸術文化活動事業費と、その次の文化財保護費のところになりますが、ここのいずれにも今回は計上しておりません。なぜかといいますと、まず、私の認識不足だったら大変申しわけないんですけども、この基本構想につきましては、つくらないと補助金が一概に受けられないというのじやな

くて、基本構想をつくれれば有利な補助が、施設の整備とか、そういうところで補助が有利に受けられる、そういう認識でおります。また、基本構想をつくるに当たりましては、これは担当者の受け売りなんです、市の指定している文化財や県の指定している文化財、また国指定がありますが、そういうところにとどまらず、例えば皆さんのおうちにありますそういう文化財についても掘り起こしとか、調査を進めたり、市内全般のことについて調査が必要ということでございます。ということは、かなり壮大な調査が必要になってきますし、今の段階では、まだここに手をつけられる状態じゃないかなというところがあります。ただ、今後やらないかという、そうではなく、やる方向では考えておりますが、もうちょっと時間をいただきたいと思っています。ただ、現在進めております烏山城跡の調査や長者ヶ平のことについても、この後報告書を作成する予定でございますが、その辺のところは基礎資料となるべきものになると思って考えておりますので、そういう意味では少しずつ準備はしているという考えでございます。

○議長（渡辺健寿） 石川商工観光課長。

○商工観光課長（石川 浩） 予算書71ページになりますが、ユネスコ無形文化遺産活用促進事業費603万1,000円でございます。内容としましては、委託料が約130万円で、丸わかり情報サイトというものの充実を図ろうということでございます。丸わかり情報サイトにつきましては、平成29年度アクセス数が12万2,700件ほどございました。28年度で4万1,000件ですので、約3倍のアクセス数があったということで、内容的には今後平成30年度を予定していますのは、SNSの内容の充実とスマホなんかでのアンケート機能の追加、あと屋台とか、おみこしとかの位置情報を発信しようということで、その機能を追加しようとしてございます。

あと、従来あるものは駐車場の混雑情報とか、自分がいるところのGPSでの位置情報等につきましても、従来どおりしていこうということで考えてございます。そのほかこの科目の中では交付金としまして、山あげ祭実行委員会が昨年5月30日に発足しましたので、そちらの活動費としての交付金470万円ほどを予定してございます。

あと、2点目の108ページのいかんべ祭がゼロになっておりますが、御存じのように、いかんべ祭の実行委員会が解散されまして、その後、実施団体が現在ない状態でございますので、今回につきましては、予算はゼロにしているということでございます。

○議長（渡辺健寿） 薄井環境課長。

○環境課長（薄井時夫） 予算書61ページ、説明書きの2段書きの5行目、環境基本計画策定事業費459万3,000円の御質問ですが、環境基本計画につきましては、合併後の平成20年度に策定しまして、第1次が平成21年度から30年度の10年間、来年度で終了い

たします。第2次環境基本計画は平成31年度から40年度の10年間、今回、計画を策定するという内容になってございます。

先ほど滝口議員の御質問の中にもありましたように、平成29年度190万円ほどの予算をいただきまして、動植物の基礎調査を実施いたしました。平成30年度来年度は具体的に計画策定、それと動植物の継続調査という内容になってございます。459万3,000円の内訳でございますが、環境基本計画策定作業委託費356万4,000円、環境審議会等諸経費70万円、計画書印刷製本費32万9,000円、計459万3,000円を計上させていただきました。

第1次環境基本計画の中で基本理念といたしまして、自然や環境を大切に次世代へつなぐまちづくりという基本理念を出しましたが、これを継承しながら策定するということにいたしております。

以上でございます。

○議長（渡辺健寿） 佐藤上下水道課長。

○上下水道課長（佐藤光明） 同じく予算書の61ページ、浄化槽設置事業費につきましての質問でございますが、生活排水の水質浄化を図ることを目的としまして、単独槽から合併浄化槽への移行を推進しております。単独槽の撤去費につきましても補助制度を設けておりまして、撤去1基当たり10万円を補助しております。平成29年度の12月末の切りかえ件数につきましては、18件でございますが、平成28年度におきましては42件の単独槽から合併浄化槽への切りかえがありました。今後も下水道区域外にお住まいの方に合併浄化槽への推進を図ってまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○議長（渡辺健寿） 3番滝口議員。

○3番（滝口貴史） 了承した点と了承できない件、数字は後で教えてくれるということで、済みません、よろしくお願いいたします。

まず、スクールバスですね。親の思いと教育者の思い、また執行部の思いと、これは違うと思うんですね。皆さん思い思いで。でも、この市の方針として、多額の財政を使ってスクールバスをまず出したというのが経緯にありますね。それで、その中で部活動だからとか、そういったものは、まず大きな計画の中では二の次のような気がするんですね。まずはスクールバスに乗っていただきたい、乗っていただけないのだったら、その理由をちゃんと説明していただいて、理由の説明を受けて、それでこういう理由だったら許可しますというのが筋だと思うんですね、まず。スクールバスにこれだけ多額のお金を出したんだ。だったら、スクールバスをやらなきゃよかった。それは我々も悪いのかもしれないですけども、まず、そもそも論になってしまうと思うんですね。荒川地区の方だったら、もともとバスを使わない方が多か

った、逆にスクールバスに乗りたい人を希望したという方が僕は正しいと思うんですよ。ただ、下江川地区が一番遠い子は、志鳥の上から毎日10キロ走って御兄弟で今行っている方がいます。10キロですよ、往復20キロ、それは体力づくりもありますけれども、僕は安心安全の方が優先的な話ではないかと、だったら冬場は乗っていただきたいとか、バスがあいているのであれば、夏場であれば自転車でもいいよとか、そういったしっかりとした方針が決まっていなからだめだと思うんですね。それは学校の対応とも合わせまして、よくもう一度協議して、3年間もバスに乗らないという条件でしっかりと最初から自転車を通う、昔みたく。そうするとバスの台数も減らせると思うんですよ。三箇を走っているバスなんて5人ぐらいしか乗ってなくて、本当に我々が議会で視察した混乗も可能じゃないかと思うような話ですね。ですから本当に空バスが走っているようなのもったいない気がするんですね。それは地域住民がみんな見えていますから、よく考えていただきたいと思います。

もう一点、高等学校教育振興事業費は、残念ながらほかの市に行く子供にはまだ全然予算がないと。本当に市民の財政が烏山高校を残すという大きな課題の中、必要だったかもしれませんが。今回も1.0倍を超えました。今のところ受験はあしたですが、そう言うては言葉は悪いかもかもしれませんが、餌でつっているような気がして仕方がないんですね。烏山高校の魅力があってこそ、ここへ来ていただきたいというのが筋だと思うんですよ。7,500円金額を上げて、これを少なくするから、そういう話ではないと思うんですよ。ぜひとも烏山高校の魅力、この通学のお金ではなくて、魅力発信のためのお金になったら惜しまない額だと思うんですよ。それが通学のためというのは、やはり市民の税金を使ってやることではないと思うんですよ。ですから、烏山線を残す、バスを残すという大きな課題もあるかもしれませんが、できれば烏山高校の魅力を発信して来ていただけるように、これはまちづくり課で一生懸命やっているので、まちづくり課とよく共同してやっていただきたいと思います。

それと、歴史文化基本構想の件は、前向きにやっていただいて、先ほど課長の答弁を聞いていると、歴史文化構想のために市内の文化財を掘り起こさなくちゃならない、いや、結構な話じゃないですか。どんどんやっていただきたいと思います。宝物を発見して、那須烏山市に来る理由を、こういうものが見られるという、どんどん宝物を発見して、見せていただける方には見せていただいて、文化構想をしっかりとつくって、その補助をいただいて、どんどんやっていただきたいと思います。

以上、もう一回、教育長、いかがでしょうか、今の。

○議長（渡辺健寿） 田代教育長。

○教育長（田代和義） まず、スクールバスについては、私も、一部保護者から、空気を運んでいるようなバスがたまに走っているという話は聞いております。ただ、安心安全は、たっ

た1人でも生徒が長距離にいる場合には、バスのサイズを変える云々は別にしても、出さなければならぬと考えております。

それから自転車で通う、そういった自由も、そこには当然保障されなければならないところだと思っておりますので、先ほど申し上げたところから大きく逸脱はしませんけれども、ただ、理由その他趣意書みたいなのを年度当初にとるということはやはり必要かなど、実際に自転車で通学事故が起こってしまったときに、本当はバスに乗りたかったんだけどもという話でもちょっと困りますので、そういった部分については、相手方の保護者の意思を担保するということは必要かなど考えておりますので、今後対処したいと思っております。

烏山高校に対する通学補助については、私も、立場が変わる前は要請する方でしたので、言いつらい部分もありますけれども、那須烏山市から那珂川町の馬頭高校に通っている生徒には、那珂川町から補助が出ております。あちらの財政規模からすると、かなりの負担だと思っておりますが、頑張ってくれているということ、ただ、今回、昨年末いろいろ御指導いただきながら御厚意で3年間延長ということになりましたので、来年度7,500円、その次は1万円と上げていって、これをさらに延長するということは、別なことを考えるようなことで現在のところは考えてはおりません。もともとは定期代を下げてくださいというお話からこれは始まったことで、市と町から逆にお金を補助するという御提案があって、校長のときに戻ると、そういうことなんでしょうかというありがたいお話で受け入れて、現在に来ているわけですが、いずれにいたしましても、今後さらに烏山高校の魅力発信については学校に働きかけるとともに、協力できるところは協力していきたいと思っております。

○議長（渡辺健寿） 3番滝口議員。

○3番（滝口貴史） 烏山高校は了解させていただいて、スクールバスは、何回も言いますけれども、安心安全というのは、バスの方だって、自宅からバスに行くまでの間等々は歩いていたり、何らかの手段で行っていると思うんですが、最後に、自転車でこれから通学してくる子もいるじゃないですか。その子たちのためにも街灯と道路の整備、都市計画課等々と計画して、通学していないところ、バス通のところは荒れ放題ですので、そこも確認していただきますよう要望しましてお願いいたします。

終わります。

○議長（渡辺健寿） ここで暫時休憩いたします。再開を11時25分とします。

休憩 午前11時16分

再開 午前11時25分

○議長（渡辺健寿） 休憩前に引き続き会議を開きます。

4番矢板清枝議員。

○4番（矢板清枝） それでは、質問させていただきます。まず、予算書概要から8ページ、産後2週間健診・産後ケア事業ということで、1,420万3,000円の事業なんですけれども、その事業の内容とその内訳というか、いろいろなものを全て教えていただければと思います。

それからその下の病児保育事業4,930万6,000円、現在の利用実績、また今後の取り組みについて伺いたいと思います。

その下のいきいき温泉入浴助成、緊急通報装置設置、外出支援サービス事業ということで、828万4,000円、対象人数と事業内容、またこれが関連しているかないか、後でまた聞きますが、その事業内容を教えていただきたいと思います。

それから予算書で105ページ、民生費、地域密着型サービス等整備助成事業補助金1,000万円があったんですけれども、今年度はなしになっていますが、その理由ということをお聞きしたいと思います。その下のもう一つ、社会福祉施設整備費補助金1,500万円、今年度はゼロなんですけれども、両方とも同じ理由を教えていただきたいと思います。

それから障害者地域生活支援事業日中一時支援事業補助金ということで、317万4,000円、これが計上されているんですけれども、その下に障害者地域支援生活支援事業、生活サポート事業、また、その下に訪問入浴サービスがゼロになっている内容は、全てこの上のものに一緒に計上になっているのかということで、内容を教えていただきたいと思います。

それから108ページの消防費、南那須地区総合水防訓練交付金というのが30万円あったんですけれども、今年度はゼロになっているんですが、この理由のほどをお願いいたします。

それから災害協定和光市交流事業実行委員会交付金50万円というのが、前年度はあったんですけれども、今年度はゼロになっています。その理由を教えていただきたいと思います。

それから、前後して申しわけありません。また予算書の105ページ、保育士等就業奨励金216万円、これについて今実施されていると思うんですけれども、その中の実績など、また今後就職していただける方がだんだん出てきているのかということをお聞きしたいです。

それから、前に行ってしまうと申しわけないんですが、予算書41ページの運転免許証自主返納者支援事業ということで、68万1,000円というのがあるんですけれども、これが予算概要のところ、いきいき温泉入浴助成の外出支援サービス事業というのにも関連してあるのかどうか、そこのものがどうなっているのかということも関連して聞きたいと思いますので、お願いいたします。

それから、予算概要の9ページ、その中の奨学基金運営費、奨学資金給付費ということで、

470万円があるんですけれども、予算書では109ページに、100万円の減額ということに今年度はなっているんですけれども、その減額の理由というのを教えていただきたいと思います。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 神野こども課長。

○こども課長（神野久志） ただいま御質問いただきました1点目の妊産婦健康診査産後支援事業の内容について御説明申し上げます。

主には業務委託料としまして1,374万円、そのうち健康診査にかかるものがほとんどなんです。新たな取り組みとしまして、従来行っていなかった産後2週間の健診事業、それから先日の一般質問でもお答えしましたが、産後ケア事業ということで、産後2週間の分が75万円ほど、それから産後ケアに関するものが宿泊型と日帰り型、これはある程度予想の数字でということでの見込額ですけれども、宿泊型が5人の方、日帰りの方が20人ということで、合わせて24万円ほどの額を想定しております。これについては、当然利用される方について希望ということと、それからあわせまして、自己負担ということが発生いたします。産後ケアにつきましては、一般質問の答弁のとおり、産科医院さんで産後2週間、それから産後1カ月健診でエジンバラという問診のようなものを行って、産後鬱の傾向のある方についての事業となっております。このほか、産後1カ月と2週間の関係で同様の利用を、例えば市外に里帰りして利用された方の分についても、別途補助金ということで39万円ほど見ております。この事業については、内容的には今申し上げたとおりでございます。

それから、先ほどの2番目の質問の実数については、調べてからお答えしたいと思います。

あわせまして、予算書の105ページの216万円の保育士の育成奨励金ということで質問いただいた件につきましては、予算では平成30年度は3人の方を見込んでおります。それは新規なんです。そのほか継続ということで交付される方の分も見込んでおります。

なお、この実績等についても、後ほど数字を確認し次第お答えしたいと思います。ただ、人数はまだはっきりはわからない部分があるんですが、実際にこの奨励金を活用して市内の保育事業所等に就職された方はおるという状況でございます。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 稲葉健康福祉課長。

○健康福祉課長（稲葉節子） 私からは、先ほど概要版8ページの在宅高齢者支援事業の内訳をとということだったと思いますので、およそ先ほど言われたように、緊急通報装置150万円、あと外出支援サービス事業150万円、それから温泉入浴助成事業が430万円ちょっと、そのほかにも寝具乾燥、生活支援管理指導短期宿泊事業等がありますけれども、そのような事

業になっております。詳しい実績については、行財政報告書の118ページから119ページあたりをごらんになっていただければわかるかと思っておりますので、そちらを参考にいただければと思います。

それから予算書の105ページ、地域密着型サービス等整備助成事業補助金についてでございますけれども、これは高齢者の介護系の施設で、昨年度新規に始まる場所に補助を県費から出すわけですが、市が通過して出すというような補助事業でございます。

その下、社会福祉施設整備費補助金でございますけれども、こちらは市内の障がい者の施設整備ということで1,500万円市から出してございますけれども、今年度はないということで大きく減っております。

その下、障害者地域生活支援事業費日中一時支援事業補助金でございますけれども、こちらは日中一時支援事業を利用する障がい者の方がふえているということで増加しております。

その下、生活サポート事業、それから訪問入浴サービス事業については、利用者がいなくて、実績等を検討した結果減らしたということになっております。

以上でよろしかったでしょうか。

○議長（渡辺健寿） 福田総務課長。

○総務課長（福田 守） 私からは、予算書の108ページの消防費で、まず、南那須地区の総合水防訓練なんですけど、こちらにつきましては、1年置きとか、操法大会を開催する年と開催しない年ということで、操法大会を開催しない年に水防訓練を行って、こちらに対する交付金でございますが、今年度は操法大会を開催する予定でございますので、こちらはないということでございます。

次に、和光市との交流事業の交付金でございますが、こちらにつきましても、内容が大体スポーツ交流事業でございますが、平成30年度からは生涯学習課で行うということで予算措置はそちらに移行しております。

それと、予算書の41ページになります。運転免許証自主返納者の支援事業、こちらにつきましては、高齢者の運転免許証の返納に対する補助とか、促進のためにタクシーチケットと、あとはバスのどちらかということで出しておる事業でございますが、先ほどの高齢者の事業とは関連はございません。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 岩附学校教育課長。

○学校教育課長（岩附利克） 私からは、奨学基金の運営費のことについて申し上げます。

奨学基金運営費につきましては、昨年度が570万円、今年度470万円ということで、100万円の減額になった理由ということでございますが、基金につきましては、今まで国債

を買っておりまして、毎年700万円ほど利息が入ってきたんですね。それが今入ってくるものが大幅に減になったというようなことをごさいますので、若干支給額を抑えさせていただいて、100万円ほど減額させていただいて、500万円以内ということで今後支給していきたいと考えております。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 4番矢板議員。

○4番（矢板清枝） おおむね納得いたしました。

1点、運転免許証自主返納者に対しての福祉チケットなんですけれども、これは1人に対して何枚くらい、幾ら分の補助をしていただいているのか、もう一度確認させていただきたいと思います。

○議長（渡辺健寿） 福田総務課長。

○総務課長（福田 守） 1人1万5,000円ということになります。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 5番望月千登勢議員。

○5番（望月千登勢） 予算の概要から質問させていただきます。

地域おこし協力隊事業費ですが、先ほど同僚議員も質問しておりますが、私からは、1,824万8,000円の人件費等について内訳を伺いたしたいと思います。さらに勤務時間についてですが、住民との交流を含めると、時間外的な活動が非常に多いんですが、そのあたりは今年度考慮した形をとっての活動をされるのかお聞きしたいと思います。

それから、こちらの協力隊を支援する団体の活動状況は今年度どのようになるのか教えてください。

それから、男女共同参画フォーラムを実施するというところで予算計上されておりますが、フォーラムの実施内容、計画の状況について教えてください。

次、中山かぼちゃブランド向上支援事業費ですが、こちらの生産者の増加を狙っておりますが、どのくらいアップする、さらには拡大するつもりなのか教えてください。

次、観光振興費ですが、こちらの中にあるものの内訳を教えてください。特に観光ビジョンが新しく出まして、市民に委ねていく方向性が非常に強く出ておりますが、その辺がどのように反映されているのかお話を伺いたいなと思っております。

さらにユネスコ無形文化遺産活用推進事業費でのGPS機能を活用したシステムの機能強化ですが、こちらは昨年度民間の方の提供で始まっていると思うんですが、今年度さらにどのようにバージョンアップしていくのか、その予算が計上されているのか教えてください。

さらに拡充として出ています防災通信管理費ですが、こちらは防災ラジオ等の運用も加えて

ありますが、今後どのように活用していくのか教えてください。

予算書の97ページ、職員手当の内訳における時間外がアップしております。これの背景と、さらにはその事情について御説明をお願いいたします。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 佐藤まちづくり課長。

○まちづくり課長（佐藤博樹） それでは、予算概要9ページ、地域おこし協力隊事業費のうち地域おこし協力隊の賃金等についてのお尋ねだと思います。

16万6,000円を月額として12カ月支給してございます。3名の方はトータル1年分、10月から2人新たに採用予定ということで計画しておりますので、10月から16万6,000円を半年間というようなものになっております。

そのほかに、賃金ではなく活動費交付金ということで、1人5万円を12月分、1人当たり60万円を3人分、また10月から採用される方は30万円の2人分を計上しているところでございます。

また、勤務時間の件でございますが、基本的には常勤職員と同じ時間の割り振りをしてございます。1日7時間45分の勤務時間になっておりますが、勤務体系が5時以降、時間外という支給がございませんので、その点につきましては、代休扱い、また1週間の勤務時間を労働基準法に合わせた形で管理しながら代休等を取りながら時間調整はしているところでございます。

3点目のとちぎユースの平成30年度の活動でございます。基本的に地域おこし協力隊のマネジメント管理というようなところを主眼でやっていただいております。1期生の方から引き続きお願いしたいと考えておまして、今1期生となる方へのさらなるステップアップに向けての研修、それと10月から新規でまた採用予定でございますので、その方については、起業とはというイロハの部分から研修していただくところを考えておりますので、現在の地域おこし協力隊新規、継続あわせてマネジメント管理という点でお願いしているところでございます。

4点目の男女共同参画フォーラムにつきましては、基本的には基調講演等になるかと思いますが、詳細については現在計画中でございますので、フォーラムを実施するというので、詳細については別途固まった段階で御報告したいと思っております。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 菊池農政課長。

○農政課長（菊池義夫） 中山かぼちゃの御質問でございますが、生産者の増加と拡充、拡大はという御質問ですが、平成29年度、県、JAと推進を図ってまいりましたが、現実的に

1名希望があったんですが、最終的に栽培に至らなかったということで実績はゼロです。ただ、この予算の100万円は、学校給食に中山かぼちゃのペーストを提供するという事業も含まれております。30万円、そういったものも図りながら、推進は園芸振興を私どもも掲げていますので、ぜひ新規就農者等には、中山かぼちゃも含めた園芸の振興を図ってまいりたいと考えています。

○議長（渡辺健寿） 石川商工観光課長。

○商工観光課長（石川 浩） 観光振興費の内容でございます。主な内容としましては、先ほど議員おっしゃるようなまちなか観光サイトの機能追加というものを考えてございます。内容としましては、観光スポット等のナビ機能、そこへ行ってスマートフォンでやると案内が出てくるような機能等々を追加しようということでございます。

あと、委託料としまして470万円ほど載っておりますが、サーバーの維持機能やるるぶの増刷3万部を考えてございます。まちなか観光マップというのも別途1万部つくる予定でございます。

そのほか今回DC関係でJRえきねっとというサイトがあるんですが、こちらに関東圏内でございますが、合計3回で25万人分への情報発信というのも合わせて49万円ほどとってございます。

ユネスコ無形文化遺産のまるわかりサイトの機能につきましては、先ほど滝口議員にも言いましたけれども、SNSの充実、またアンケート機能の追加、屋台やおみこし等の位置情報、そのほか従来の駐車場案内や道案内等の機能を充実させていくという予定でございます。

○議長（渡辺健寿） 福田総務課長。

○総務課長（福田 守） 私からは、まず、防災ラジオの関係なんですが、こちらにつきましては、平成30年度に防災行政無線関係のあり方について検討していかなくちゃならないということの中で、防災ラジオ等もあわせて検討していくようになります。今現在皆さんにもお配りしてあると思うんですけども、活用についてアンケート調査等をしておりまして、その集計等も参考に、今後防災ラジオのあり方と防災行政無線とか、そういうことで情報の発信について全体的に30年度に検討していきたいと考えているところでございます。

それと、予算書の中の時間外については、今までの実績等を考慮して計上しておりますし、あと平成30年度選挙等も予定しておりますので、それについての従事者の時間外についても、こちらに入れて計上しているところでございます。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 5番望月議員。

○5番（望月千登勢） ありがとうございます。商工観光課に再度お伺いします。GPS

機能を活用したまるわかり情報システムは、昨年度やりましたが、今年度どれだけどう工夫してバージョンアップするのかというところを含めて予算化されていると思うので、そこをお聞きしたいと思います。

さらに昨年度ユネスコ無形文化遺産活用推進事業費とは離れるかもしれませんが、外国人も含めた観光客へのおもてなしに配慮と入っておりますが、昨年度、外国人の方の訪問が非常に少なかったように感じます。その点の改善点、さらには各地ハラールに関する対策と、さらには海外への発信で海外の観光客がさらに深めた観光を求めて地方に動いているんですが、その対策などをお考えになっての予算化だと思うんですが、お話を伺いたいと思います。

○議長（渡辺健寿） 石川商工観光課長。

○商工観光課長（石川 浩） ユネスコ無形文化遺産のまるわかり情報のバージョンアップの件ですが、まず、サイトのアクセス件数は先ほど言ったように12万2,700件、正確に言うと12万2,796件でございます。昨年から丸わかり情報サイトをパンフレットに印刷しましてつくりまして、その維持費がまず32万4,000円、今回バージョンアップしておりますのは、先ほど言ったアンケート機能や屋台、市内6台、あとおみこし等の位置情報をサイトに載せる、あとスマホサイトの改良ということでございます。

あと、2番目の外国人対応でございますが、外国人は情報発信としましては、SNS等に掲載してはございますけれども、昨年のお祭りでは確かに外国人は少ないかなという感じはいたしましたけれども、そちらのおもてなし等々につきましては、外国語のガイド案内にも協力いただきながらやっているという状況でございます。また、ハラールにつきましては、市としては特段の対応をまだとっていないというのが現状でございます。

○議長（渡辺健寿） 5番望月議員。

○5番（望月千登勢） 過去にハラールに対するハラール弁当をつくったりとか、お祈りをする場所をつくってお呼びしたりというような経緯もございますので、市内でやっていた、その辺をお調べになって、今年度対応も検討していただきたいと思います。

以上で大丈夫です。ありがとうございました。

○議長（渡辺健寿） 6番田島信二議員。

○6番（田島信二） それでは、予算書から質問いたします。

105ページ、若者定住促進家賃補助金500万円、あと住宅リフォーム助成金450万円、あと106ページ、浄化槽設置事業補助金3,446万円、その内訳、何人槽が幾つとか何とかという、あと107ページ、JAなす南営農部会補助金50万円、あと農地集積・集約化対策事業費補助金265万円、あとは108ページ、大松・富谷・八溝大橋維持管理費負担金400万円、あと地積調査、どこの地区をやっている、何年ぐらいあとかかるのか伺います。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 佐藤まちづくり課長。

○まちづくり課長（佐藤博樹） 予算書105ページ、若者定住促進家賃補助金につきましてお答えいたします。

まず、これは平成28年度からの事業でございます。市内にアパートを借りて住む40歳以下の夫婦、または単身の方に補助をするというものです。単身の方は月7,000円、夫婦になりますと最高で1万5,000円、これを3年間支給するという内容になってございます。

その下の住宅リフォーム助成金につきましては、お住まいの建物を改築、リフォームされた場合に、最高で10万円の補助をするというのですが、これにつきましては、市内の事業所に工事を頼んだ場合のみ最高10万円補助するというような内容になってございます。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 菊池農政課長。

○農政課長（菊池義夫） 107ページのJA営農部会50万円の予算でございますが、各種団体補助金ということで、JAには複数の部会がございます。それらへ総括して50万円ということで毎年補助金として交付しております。

それから農地集積・集約化対策事業費補助金でございますが、これは中間管理事業といまして、農地の貸し借りの交付金が国からいただけます。それらの今年度の当初予算ということでございます。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 佐藤上下水道課長。

○上下水道課長（佐藤光明） 106ページの3,446万円でございます。浄化槽の設置に当たりまして、10人槽につきましては54万8,000円、7人槽につきましては41万4,000円、5人槽につきましては34万2,000円の補助をいたしております。それから、先ほども申し上げましたが、撤去につきましては、10万円ということで補助をいたしております。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 小田倉都市建設課長。

○都市建設課長（小田倉 浩） 私から、108ページの大松・富谷・八溝大橋の負担金の内容を説明させていただきます。こちらは那珂川町との協定で、那珂川にかかっている北から八溝、そして大松、富谷と那珂川町を結んでいる橋梁なんです。こちらは管理協定で全て那珂川町の管理ということで、そのかかる費用を2分の1負担ということでの負担金でございます。中身としましては、橋梁の維持修繕費ということで、橋梁の照明とか維持修繕ということ

で、こちらは400万円と出ているんですが、これはあくまでも当初ベースの概数ということです。実施に伴いまして緊急な修繕が必要になれば、それは補正対応ということで例年やらせていただいております。

続きまして、地積調査につきましては、予算書の67ページ、地積調査事業費ということで4,132万3,000円ということで、こちらは内容としましては、大木須と野上の継続事業の調査ということと、あと過去の曲田の修正ということで3地区を予定しております。

上でございます。

○議長（渡辺健寿） 6番田島議員。

○6番（田島信二） あと一度お伺いします。若者定住はどのくらい住んでいる人が多いんですか。何年ぐらい定住。

○議長（渡辺健寿） 佐藤まちづくり課長。

○まちづくり課長（佐藤博樹） 平成29年度につきましては、トータルで17件の対象者がございます。それらの方につきましては、30年度以降も同じような継続がなされる予定であります。そのうち転入で来られた方は、11件になります。

以上でございます。

○6番（田島信二） 了解しました。

○議長（渡辺健寿） ここで暫時休憩いたします。再開を午後1時とします。

休憩 午後 0時02分

再開 午後 1時00分

○議長（渡辺健寿） 休憩前に引き続き会議を開きます。

ここで、先ほどの矢板議員の質問に対し答弁漏れがありました。こども課長より答弁があります。

神野こども課長。

○こども課長（神野久志） 先ほどの矢板議員の御質問の2点目の病児保育の利用実績についてお答えいたします。

利用については、那須南病院と宇都宮済生会病院の2カ所がございまして、まず、那須南病院については、延べの人数ですけれども61名、これは2月末までの実績ということでございます。内訳としましては、市内在住の方が37名、那珂川町の方が8名、それから市外在勤者ということで、病院に勤めている方かと思いますが、16名ということで61名となります。

それから、済生会なんですけど、こちらは三四半期ごとの集計ということで、12月末現在ですけれども、市内の方ですけれども、延べで9人ということでございます。

続いて、保育士の就業奨励費の関係の実績ということでお答えいたします。

まず、平成28年から始まった市単独事業なんですが、平成28年度の交付者3名のうち29年度で就業した方が1名、それから新年度の30年度ということで1名内定の方がおります。もう一名は現在も就学中ということでございます。

それから平成29年度3名の方についてなんですが、1名はこの4月からということで、新年度から市内の保育所に1名就業予定しており、ほかの方は就学中ということになります。なお、内定の方お二人につきましては、4月以降書類等で再確認する予定でございます。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 8番 渋井由放議員。

○8番（渋井由放） それでは、8点ほど質問したいと思います。

まず、概要版から、3ページの回数券を購入してJR東日本烏山線の利用向上を図るということでございます。どのような出張を想定しているのか、多分宇都宮の出張かなと思われま。それで、回数券ですから、1つは、それによって幾らか安くなるということがあるのかなと思いますが、今まで同僚議員がたびたびJR烏山線を利用して出張をしたらいいだろうというときの答弁は、時間が自由にならなくて、かえって経費がかかるんだというような回答もたびたびあったかなと思います。どのぐらいの経費負担をこの中で考えているのか、また、烏山線を利用することによってどのような利点を考えているのか、この点についてお伺いしたいと思います。

あと、予算書の、これは全く今までスルーしていたものなんですけれども、地方債があります。6ページ、利率が5%以内、それ以上になったときは、またどうのこうのと書いてあるんですけれども、5%の基準というか、これはどんなところから決まっているのか、その辺を教えてくださいたいと思います。

あと、次は、25ページと69ページなんですが、元気な森づくりの推進事業交付金が25ページで、事業費が69ページです。そこに差異が9万7,000円ありまして、この差異は市からのお金になるんだと思うんですけれども、非常に細かく出ているものですから、どのような事業内容で何か所ぐらいを行うのかというようなことですね。

あと、106ページになりますが、農業公社の運営費補助金が310万円ほど来年度は少なくなっておりますので、その辺がどのような内容なのか。

あと、108ページになりますが、山あげ祭の実行委員会472万2,000円、どのような事業をどのような人たちがどのような方法で行っていくのかということですね。

あと、これは都市建設課長にお尋ねしたいと思うんですけれども、谷浅見平野線が、今年度コンサルタントを入れて用地補償の段取りをしたかなと思うんです。来年度用地取得という

ことになると思うんですけども、どのような事業内容に今なっているのか、お願いできればと思います。

あと、水道事業の会計なんですけど、ことしはとても寒くて、あちこち破れた、水道管が破裂したなんていう話もございましたが、本管とか、配水管とか、そういうのはなかなか壊れなかったかなと思うんですけど、あちらこちらで昨年度は修繕をしたのかなと思います。来年度修繕費用はどのぐらいを見込んでいるか、あと今年度はどのぐらいの実績があったのかを教えてくださいなればと思います。

あと、これは何ページというんじゃないんですけど、前にお話ししました環境課と農政課で、ほぼ同じような水質検査をやっている、環境課は河川の環境の水質検査で、農政課は八溝西部開発事業畜産団地の造成によって水質が変化しているかどうかの確認だというようなことだったと思うんですけど、それを1つで入札をすれば、もしかすると合算経費といいますか、安くなるんじゃないかという提案をしたことがあると思うんですけども、その辺の御検討をなされているかどうか、なされていないとすれば、なぜ別々にするのかというようなことを以上お尋ねしたいと思います。

○議長（渡辺健寿） 佐藤まちづくり課長。

○まちづくり課長（佐藤博樹） それでは、1点目、概要書3ページ、JR烏山線利用促進事業費22万4,000円、その中で、JR利用回数券を購入するという部分でございます。

まず、回数券につきましては、烏山駅から宇都宮駅までのJR烏山線の回数券を購入する、それを職員が、JR烏山線を利用しながら宇都宮に出張に行くというところを目的としております。その中で利用向上が一番の目的となりますが、これに対してはJRにアピールすることもあることながら、市民に対しても、職員みずからSuicaの導入等も遠い将来を見据えながら利用向上を図っていくんだというやる気を少し見せたいという思いがございます。そのほか、効果としましては、歩いて宇都宮市に行くことによって、さまざまな自治体のまちづくりへの視点、そういったものも各職員に芽生えるのかなというところも考えてございます。そのほかには、それぞれの職員の新たなリフレッシュ効果じゃないんですけど、ちょっと違う視点からの出張によって、新たな気づきがあればいいかなという点も考えてございます。

その分、時間外がふえるんじゃないかなという御指摘かと思われませんが、時間外につきましては、ざっくりの計算ですが、2時間程度の時間がもしふえた場合、この予算書の平均給与からすると、50万円から60万円ぐらいが今回の予算措置をする100回、100人と仮定した場合、その程度の予算増が見込まれますが、これに関しましては、組織内の効率化、協力によって時間外がふえることなく出張が行えるような体制を全庁を挙げて取り組めば、その分の時間がかからなくても済むのかなと思っております。

いずれにしても、職員みずからが利用向上、JRにアピールしたいという思いから今回の予算を計上してございます。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 両方総合政策課長。

○総合政策課長（両方 裕） 私からは、予算書6ページの地方債の利率でございます。

平成30年度は、こちらにございますように、4本の起債を予定してございますが、利率につきましては、どれも5%以内と、議員の御指摘のとおりでございます。その利率の定めにつきましては、それぞれの自治体に任されているようでございます。当市におきましては、合併以来は5%以内ということで、そのまま毎年度同じように運用してきた、運用といえますか、定めてきたということです。もちろん御案内のとおり、現在の利率等につきましては、かなり低い、1%未満となっていることはありますが、現状では5%以内ということで定めてきたということでございます。

○議長（渡辺健寿） 菊池農政課長。

○農政課長（菊池義夫） まず、1点目の元気な森づくりについてでございますが、歳入予算書25ページの1,059万5,000円と69ページの歳出1,069万2,000円の9万7,000円の差異についてでございますけれども、歳入の1,059万5,000円につきましては、2つ事業がありまして、まず1つは、元気な森づくりの環境整備、里山林整備の予算で平成30年度県に要望しました金額が1,039万5,000円でございます。もう一つの事業では、育樹祭関係の事業も補助の対象となります関係から、県に20万円の要望をしております。1,059万5,000円の内訳は2つの事業の要望でございます。差異につきましては、一般財源の持ち出しでございますが、内容は消耗品であるとか、通信運搬費等の費用に充ててございます。

それから、2点目の農業公社の106ページの補助金の減額についてでございますが、平成29年度は2名分の補助金を交付いたしました。株式会社設立に向けた1年目ということで、2名の予算をつけさせていただきました。30年度につきましては、局長の人件費相当分の補助金ということで1名分減額した分が310万円でございます。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 石川商工観光課長。

○商工観光課長（石川 浩） 108ページの山あげ祭実行委員会472万2,000円の交付金でございます。山あげ祭実行委員会につきましては、昨年5月30日に発足しまして、構成としましては、4部会を持っております。運営部会、企画総務部会、祭典部会、おもてなし部会ということで、それぞれ企画総務部会につきましては18名で、各当番町から推薦を

いただいております。祭典部会につきましては、各6町の筆頭世話人の方になっていただいております。おもてなし部会につきましては、市商工会、観光協会、金融団、JAという方の協力をいただいております。運営部会につきましては、市で担っております。

交付金の内容ですが、主にはお祭り中の警備や物品のレンタル料等が約400万円ほどかかっております。昨年までは市の一般会計予算で各節ごとに予算化しておいたんですけども、実行委員会ができたということで、機動性を持たせるということから、交付金に一括まとめて交付することにしてございます。そのほかは消耗品等や経費等になります。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 小田倉都市建設課長。

○都市建設課長（小田倉 浩） 私から、谷浅見平野線の整備についてお答え申し上げます。

まず、谷浅見平野線につきましては、七合小学校から富谷橋の間930メートル、通学路の安全を確保ということで、防災・安全交付金で事業を実施している最中でございます。平成30年度の予算につきましては、概要書の10ページの中ほど、道路交通網の整備ということで、道路整備費で社会資本整備総合交付金の中の防災・安全交付金ということで、1億4,650万円のうち、谷浅見平野線を事業化しております。

平成30年の予定としまして、議員が先ほど言ったように、今年度までに事業をやるための基礎的な調査、路線測量、詳細設計、物件調査等を全て完了しておりますので、平成30年度はいよいよ本格的に用地買収をする予定の段取りとなっております。ただ、現在においてまだ国から内示が来ていませんので、防災・安全交付金で行いますので、それは国からの内示の額に影響するということがあるんですが、30年度にはいよいよ用地を取得するという予定になっております。

以上でございます。

○議長（渡辺健寿） 佐藤上下水道課長。

○上下水道課長（佐藤光明） 水道事業について説明いたします。

平成30年度の配水及び給水費の修繕費につきましては、2,137万6,000円計上させていただきます。平成29年度現在の予算額につきましては、漏水が多かったということで補正で対応いたしておまして、予算現額としまして3,186万9,000円を計上させていただきます。1月末の執行済額につきましては、2,460万円執行しております。その後、ことしの寒さによりまして、2月、3月の修繕が出てくると思われま。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 薄井環境課長。

○環境課長（薄井時夫） 水質検査の御質問ですが、一般質問でも御質問いただきました。

質問いただいた時点、さらに当初予算編成の時点で農政課、環境課、担当同士ですり合わせ、検討調整いたしました。水質検査の内容、それから目的等が大幅に違うこと、さらに調査時期が違うということ等がありまして、なかなかすり合わせが難しいということになりまして、平成30年度は従来どおりそれぞれの課での計上ということにいたしました。御理解いただきたいと思います。

○議長（渡辺健寿） 菊池農政課長。

○農政課長（菊池義夫） 先ほど1点、元気な森づくりの内容について、どのくらいの規模でというのが漏れてしまいましたので、予算要望の段階では先ほど申し上げましたけれども、管理作業と整備作業がございまして、1年目が整備作業ということになります。2年目以降4年間、管理作業というのができます。ということで、平成29年度の実績をもとに29年度新規でやったものは30年度管理作業という形で要望いたします。面積的に合計では165.9ヘクタールを予定しております。箇所数では今年度全部で24カ所行いましたが、そのうちの23カ所が管理作業ということで予定しておりまして、未定ではございますが、新規整備が1カ所ということで要望しております。

以上です。済みませんでした。

○議長（渡辺健寿） 8番洪井議員。

○8番（洪井由放） 回数券の購入でJR烏山線の利用向上を図るといふ、非常にいいことだと思います。今までは時間外がふえたり、いろいろするんだというのが皆さんの御答弁でしたから、急に努力すればそういうのを解決できるんだという意味が、私はわかりませんが、ぜひとも努力して縮めてもらいたい、こう思います。

あと、地方債の利率5%、これは今までも5%だから5%なんだというのはいいんですが、実際決まっていないんですね。こういうところを常々見て、今はやはり4%とか、3%とか、そういうところも変えていくというか、当たり前に今までどおりなんだというようなスタイルでは、この変化に対応できないと思いますので、そこら辺はしっかり見てもらえればなと思います。

あと、元気な森づくりにつきましては、もしこういうことができればという提案なんですけれども、烏山城600年祭、その周りの森林が非常に荒れております。三の丸付近にこういうものを入れて整備できるかどうか検討してもらえればなと思います。これは要望で、あれは結構なんですけれども、あとは、山あげ祭実行委員会に機動的に対応してもらうためにお金を出すんですよというようなことなので、ぜひ多くのお客さんに来ていただいて、楽しんでいただけるような体制構築をお願いできればなと思います。

あと、水道会計につきましては、2,000万円も毎年修繕し、水も漏れているということ

で、新しく新設する計画になっているようなので、ぜひこれが少なくなるような体制をとっていただくように、常日ごろできるだけ早く修繕をする態勢がとれるようお願いしたいと思います。

あと、谷浅見平野線の用地取得なんですけれども、土地開発基金というのを当市は持っていて、二億幾らぐらいあるんでしょうかね。事業をどんどん進めるために先行取得をするというのが、土地開発基金だったかなと思うんですけれども、こういうものも使えるのか、使えないのかわかりませんが、その辺も考えて進められるといいんではないかと思うんですが、その辺の見解はいただけますでしょうか。

○議長（渡辺健寿） 小田倉都市建設課長。

○都市建設課長（小田倉 浩） 土地開発基金を利用して用地取得したらどうかということにお答えします。

これは事業の性格から、それも私ができればいいなと思っているんですが、これは制度上でできない事業なものですから、あくまでも当該年度で予算立てしてやるという事業なものですから、それはこの事業に対してはできないということです。

○議長（渡辺健寿） 両方総合政策課長。

○総合政策課長（両方 裕） 先ほどの地方債利率5%につきまして、県内状況等を参考にしながら、5%より低い3.5%とか、4%というところもあるようでございますので、現状を認識した上、来年度以降現状に沿って下げる、基本的には、具体的には下げる方向で検討したいと思っております。

○議長（渡辺健寿） 8番渋井議員。

○8番（渋井由放） 多分広域行政は4%だったかなと思います。ほかの市町村は3.5%というところもあるようです。これは別に、どうせそれにはならないと思うので、問題はないと思うんですが、常日ごろ機動的にやってもらえればと思います。

あとは、環境課と農政課につきましては、それぞれが違うんだという、時期も違うしということなので、了解したいところなんですけど、もう一度、別にこういう調査なんかは1年間のうちにこれというようなことで、調査依頼というか、入札にかければ大丈夫かなとは思いますが、再度すり合わせしていただけるかどうか御答弁をお願いします。

○議長（渡辺健寿） 薄井環境課長。

○環境課長（薄井時夫） 今後とも調査研究をさせていただきたいと思っております。よろしくお願ひします。

○議長（渡辺健寿） 9番久保居議員。

○9番（久保居光一郎） それでは、7項目にわたって質問をさせていただきたいと思いま

す。

まず初めに、本年度の予算総額が113億2,000万円で、予算概要に書いてある12ページになるかと思うんですけれども、ここに1人当たりの行政コスト41万6,774円とありますけれども、これは住民基本台帳で割った1人当たりのコストかと思うんですけれども、国勢調査の人数でやると大体43万円ぐらいになるんですよ。このコストは、私も調べていないので、悪いんですけれども、ほかの県内の市町と比べて1人当たりの住民コストというのはい多い方なのか、少ない方なのか、その辺のところがもしわかったらば、わからなければ後で結構でございますけれども、伺いたいと思います。

それから2番目は、予算概要の9ページ、教育情報ネットワーク整備事業費、電子黒板とか、いろいろなことがあるかと思うんですけれども、5,635万3,000円の内容について御説明をいただければなと思います。

3点目は、デマンド交通の運行管理費3,807万9,000円でありますけれども、平成28年度の実績は約1万9,000人ですか、行財政報告に載っておりますけれども、これの利用者が払う金は、たしか200円か300円だったですよ。それで、予約業務も委託していると思うんですけれども、予約業務を委託するだけで、利用者で割ってみると、予約業務委託料が1人頭、昨年の実績当たりを計算しましたらば、560円ぐらいかかっているんですね。電話で受けて、そして運行会社に連絡して、またお客さんに予約がとれたという電話をする、そういうことかと思うんですが、560円ぐらいかかるコストをもっと下げることはできないのか、1日当たりだと利用者でやっている稼働日を割ると1日50本ぐらいの電話なんですよ。それで、1人当たり560円ぐらいかかるので、ちょっと高いんじゃないかなと、ほかの市町と比べてどうなのか、それから利用者も200円でしたっけ、利用する人が払うのは、300円ですか。それも、うちはお金がないわけですから、これはどんどんこれからまた利用されてくると思うんですよ。これもそうだし、そのほか高齢者福祉タクシー事業費で650万円なんていうのもありますけれども、こういう金額はこれからどんどんふえてくると思うんです。これを300円からワンコインの500円ぐらいに上げるということも、今後、私は必要になってくるんじゃないかなと思うんですけれども、どのようにお考えか伺いたいと思います。

それから4点目は、先ほど同僚議員が質問した烏山高校の通学補助1,000万円、これは本当に私はやるべきじゃないと思います。同僚議員が言ったように、烏山高校の魅力を上げる、魅力を学部でやるのか、部活でやるのかはいずれにしても、それを県に働きかけていく、それに対してバックアップするための費用であれば、私はやむを得ないと思います。そういう魅力のある学校だったらば、生徒たちは遠くからでも来ます。自腹でも来ます。この1,000万

円は大変もったいない。特にうちのように財源が厳しいところは、こういうところを削減していかないと削減できないですよ。川俣市長も削減の方向ですから、本当にシビアに考えてやっていかないと、生きた金を使わないとだめだと思います。それについての見解を伺いたいと思います。

それから5番目が、スクールバスの乗車について、これも同僚議員が質問しましたけれども、今いろいろな学校ごとにスクールバスが走っているわけですが、乗車率というんですか。今動かしているバスに乗る定員数に対して何人ぐらい乗っているのか、今わからなくてもいいです。今ぶつきの質問ですから、1車当たり何%、30人の定員のところに対して10人しか乗っていないのかとか、25人しか乗っていないのかとか、そういうパーセンテージがもしデータがあれば教えていただきたい。これは今わからなければ、わからなくて結構でございます。

それから6番目が、予算概要の14ページでございます熊田診療所についてなんですけれども、毎年市の一般会計から繰り入れしていますよね。予算が6,123万円に対して診療収入が3,380万円、予算総額の約55%であります。これは毎年繰り入れをしているんですけれども、もうちょっと効果の上がるような、とんとんでいくぐらいの、ことしは、また去年もそうでしょうけれども、繰入金も繰越金も投入している状態でありますけれども、もうちょっと効果的な運営ができないのかどうか。

それから同じ熊田診療所に関してなんですけれども、ここの付近は子供たちのスクールバス停にもなっているかと思うんです。ここの敷地に雑草が生えている、草は生やしっ放しになっていて、虫が出るんだというんですね。蚊に刺されたりするので、何とかしてほしいという苦情が私のところにも寄せられております。先生の趣味で草を生やしているのかどうかわかりませんが、その近辺にバス停がもしあれば、子供たちも虫に食われて嫌だというような苦情がありますので、その辺についてもどうお考えかお答えをいただきたいと思います。

最後の質問は、私の所管する商工観光課ももちろん関係するんですけれども、そのほか文化振興課、それからまちづくり課、総合政策課全て関連してまいりますので、伺いたいと思います。グローバル人材育成事業、これはインバウンド、すなわち外国人利用客のときの対応として、こういう事業をやっているのかなと思います。それからアキュムも走っています。ことしは築城600年で、いろいろな事業をやります。ジオパークも今進めております。それにあわせて山あげ祭とか、そういういろいろなまちおこしの関連で1億円近い予算が使われているんだと思うんですけれども、それに対する波及効果というんですか、経済効果、それからインバウンドの体制を整えても、何人ぐらい外国人の観光客が来ると想定してやっているのか、それから経済効果はどのくらい見込むのか、そういうことまでお考えになっているのかどうか、質問いたしたいと思います。

以上7点であります。

○議長（渡辺健寿） 両方総合政策課長。

○総合政策課長（両方 裕） 私からは、1点目の予算概要12ページでございます本年度予算の住民1人当たりの予算額41万6,774円、こちらが県内で平均だとどのぐらいかという御質問です。

こちらにつきましては、各市町村とも今議会とかだったりして、まだ決定した数字ではないんですが、私どもの財政担当で新聞報道を取りまとめいたしましたところ、一番1人当たり多いところが、日光市の55万6,345円から一番低いところが野木町の30万1,535円、これはあくまでも新聞報道で、私どもと同じように住基人口をことし1月1日で割り返した数字でございます。それで、本市は41万6,774円ですので、ちょうど真ん中ぐらいの12番目、今年度予算は、という状況で把握してございます。

○議長（渡辺健寿） 岩附学校教育課長。

○学校教育課長（岩附利克） それでは、お答えしたいと思います。

まず、教育情報ネットワークの内訳でございますが、大きなもので申し上げますと、まず、機器等の点検とか、そういった業務委託費で約500万円、それと大きなものはあとリース代になります。リース代につきましては、電子黒板、あとセンターのサーバー、それと各パソコン、それとか図書のシステムのリース代全て含めまして4,884万9,000円ということになります。そのほかについては、消耗品等が若干かかるという程度でございます。

内訳は以上でございます。

続きまして、烏山高校の支援でございますが、これにつきましては、平成31年度までについては前回お話ししましたとおり、7,500円限度ということでやっていきたいと思っておりますが、32年度以降につきましては、30年度に見直しをするということでございますので、御理解いただきたいと思っております。

次に、スクールバスの乗車率でございますが、数字的なものは出しづらいというか、実はマイクロバスを基本として考えております。マイクロバスよりも人数が多い場合は中型バスということでやっております。ほとんどのバスが1度ではなくて2回回りするんですね。というようなことで、乗車率までははっきり申し上げられないということで御理解いただきたいと思っております。

あと、スクールバス停の話で、熊田診療所のところのスクールバス停というような話がありましたけれども、スクールバス停については、保護者の皆さんに管理していただいているというのがほとんどでございますので、学校を通じてスクールバス停のちょっとした点検等はお願いしたいと思っております。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 佐藤まちづくり課長。

○まちづくり課長（佐藤博樹） それでは、私から、概要書10ページ、デマンド交通のコールセンターにかかる分について、まずお答えいたします。

久保居議員がおっしゃるとおり、予約業務にかかる1人当たりの単価が高いんじゃないかという点でございます。これに関しましては、常日ごろ予約センター、運行会社、タクシー会社と市役所で常に意見交換をしているところがございますので、今の意見についてはその中でも反映させていただきまして、今後、縮小可能かどうかを再調査させていただきたいと考えております。

なお、現段階におきましては、タクシー会社に予約業務ができるのかという話は既にしているところなんです、80%以上が高齢者ということで、1本の電話にかかる取次量はかなり時間がかかって、それぞれのタクシー会社では対応できないというようなお話はいただいております。そのぐらい複雑な受付業務に今なっているという現状だけ御認識いただければと思います。単価引き下げにつきましては、今後検討させていただきたいと思っております。

2点目の300円の見直しの件でございますが、現在、健康福祉課と今健康福祉課が担当している高齢者のタクシー券、また総務課で対応しております免許返納に伴うタクシー券、そういったタクシー券の効率的な活用という研究が今始まっております。平成31年度に向けてそれらがもう少し整理できないかという研究を続けてございますので、その中で先ほどの300円からワンコイン500円の値上というのも想定したらどうかという御意見につきましても、あわせながら検討させていただきたいと思っております。

以上であります。

○議長（渡辺健寿） 佐藤市民課長。

○市民課長（佐藤加代子） 熊田診療所の一般会計からの繰入金の改善についてということですが、おっしゃるとおり、3年前まで1,100万円を超える繰入金を毎年していただいていた。経営努力をというお話を再三いただいておりますので、そちらを先生とも御相談させていただいて、去年は900万円に減額し、平成30年度は400万円に、毎年毎年繰入金の額は減らせていただいておりますので、御理解いただければと思います。

○議長（渡辺健寿） 石川商工観光課長。

○商工観光課長（石川 浩） イベント等の観光客と経済効果ということですが、観光客等につきましては、平成28年度の市町村別の観光客入込客数の調べにおきますと、那須烏山市は52万3,000人年間の観光客が来ているということになります。ただ、これはゴルフ場

利用とか、そういうものを含めた数字ですので、純然たる観光という形ではなくて、来場していただいていると御理解いただきたいと思います。また、経済効果等につきましては、改めて経済効果の指数というのは出しておりませんが、52万人の方がおいでになっているということで、数字はあわせません。

あと、インバウンド等の外国人につきましても、何人という設定はしてございませんが、話によると、滝とかは、結構東南アジア系の方が相当来ているというような話は聞いてございます。

○議長（渡辺健寿） 9番久保居議員。

○9番（久保居光一郎） 1番目の予算に対して1人当たりの住民コストについては、県下では大体真ん中ぐらいということですね。了解しました。

それから2番の教育情報ネットワーク整備事業費についても了解であります。

それから3番のデマンド交通運行管理費、これは今いろいろ調査検討しているということですが、ほかに、高根沢町あたりは、恐らく予約業務は1人当たり200円かそのくらいで、乗車運賃が500円くらい、いずれにしろ、予約業務もタクシー会社が一緒にやっていると、1カ所でやっているということでございます。コスト的にはうちよりも安いのかなと思いますので、そんなお隣の町のあれなんかも調査研究しながら、もうちょっとコストを下げている努力をしないとだめなのではないかなと私は思っております。

それから烏山高の通学補助に対して、先ほど魅力のある学校をつくれれば生徒は来ると私は思います。これこそ市長ですね、県議とか、県とのパイプを強くして、烏山高に魅力のある部活の指導者を呼ぶとか、それから魅力のある学部を創設してもらおうとか、そのためには市としても何らかの協力はしますよというような方向に持っていった方が、通学補助を出すよりも、魅力があれば来るわけですから、そっちの働きかけを県とのパイプを強くして働きかけていかなければと思います。

それから熊田診療所の件については、とにかく雑草が生えているというので、このことについては学校教育課と連携して、先生にもお願いして、できればきれいに、草も生き物だから、殺しちゃならないという考えもあるかもしれないですけども、やはり周辺環境ということも考えてほしいので、強く指導していただきたいと思います。

それから7点目のいろいろな観光関連の事業、これに対してうちの市は、山あげ祭もそうだし、いろいろなものにお金を突っ込みますけれども、それに対して何人くらい人が来ているんだ、それに対してどのくらいの経済効果があるかということは全く検証しないんですね。民間だったら、私はいつもそういうくどいことを言って申しわけないんですけども、必ず投資すれば、どのくらいの効果があるのか、どのくらいの経済効果があるのか、さらにそれで市民に

しろ、市も、メリットがあるのかどうか、そういうことまで、どこがそういうものを調査しているんだ。例えば山あげ祭10万人、去年はユネスコ無形文化遺産登録になって初めての祭りだから、プラス2万人で12万人と言いますけれども、じゃ、1日4万人ですよ、金土日やったとしたら。4万人というと、何回も言うようですよけれども、東京ドームのジャイアンツ戦で大体4万1,000人、2,000人でしょう。それから数年前に烏山城カントリークラブでやった女子のトーナメントだって、3日間で約4万とか5万人ですよ。その人が1日来ていれば、恐らく烏山の駅前から足銀のところまで表通り、裏通りに人が、立錐の余地もないとは言いませんけれども、絶えず人が行き交うぐらいの人がいないと、そういう人数は読めないと思うんですけれども、それをどこが把握して10万人と言っているのか。

それから経済効果なんていうのはないでしょ。アキムが来るからたくさんの撮り鉄ファンが来て、鉄道マニアが来て、経済効果が図れるとか、今回の築城のあれもそうですけれども、好きな人は、マニアはいますから来ますけれども、それで市も何らかの事業費を出して、どのくらい経済効果があるのかとか、何人来たのかという、正確な数はわからないにしても、それを調べるところがどこなのか、そういうこともしっかりこれからは確立していかなくちゃならないんじゃないのかなと思いますけれども、了解以外の部分についても一度、簡単に結構でございますから、答弁をお願いいたします。

○議長（渡辺健寿） 商工観光課関連は、常任委員会でひとつお願いしたいと思います。（「これはできれば総合政策課長あたりに」の声あり）

両方総合政策課長。

○総合政策課長（両方 裕） 観光客のみならず、経済効果ということで、議員がおっしゃるのは、コストをかけた分の効果を図るべきだということだと思います。そちらにつきましては、経済効果で幾らというのはなかなか把握が難しいかとは思いますが、確かに今までもそうなんですが、それは各課において予算を編成する時期には、そういう意識を持って要求して、編成しているところでございますが、特に実施計画ということで、毎年度3カ年分のローリングをしておきますので、それで策定いたしますので、実施計画の策定の中において、そういったコストですとか、効果を十分検証しながら策定、予算づけをしていきたいと思っております。以上です。

○議長（渡辺健寿） 川俣市長。

○市長（川俣純子） 高等学校教育振興事業ですが、確かに魅力のある学校になれば自然と入学したいという気持ちが出てくると思います。そのように県とも学校とも協議していきたいなと思っています。

ただ、もう一つ、通学の費用を出しているおかげでバスの利用率が上がっていますので、交

通事故の回数がかなり減っているというのも、学校からありがたいと言われていることも1つありますので、バイクの利用が減ったということがかなりありがたいとは言われています。報告だけしておきます。

○議長（渡辺健寿） 佐藤まちづくり課長。

○まちづくり課長（佐藤博樹） コスト削減に向けては、先ほども申しましたとおり、研究させていただきたいということですが、実際に他自治体については、正式に調査等を今まで余り行ってまいりませんでしたので、近隣に調査していきたいと考えております。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 9番久保居議員。

○9番（久保居光一郎） ことしの予算は、市長も就任されたばかりで、若干見直しをされたところもあると思うんですけども、仕方ないのかなと思いますけれども、繰り返しになってしまいますけれども、出しても、それで市民の本当のためになるもの、これはどんどん、また扶助費なんかは出ていくわけですけども、一般質問でも私も申したように、入りを量りて出を制す、お金を出すことはできると思うんですけども、どのようにして収入を得るかという部分は、私が今申したように、いろいろな観光に関する事業とか、これに恐らく1億円近くの金が出ていると思うんですよ、観光客を呼び込むための。そうしたら、それに対してどのくらいの人に来て、どのくらいの経済効果があったのか、そこらももっと具体的に検証できるようにしないと、例えば山あげが10万人、12万人だといったって、そういうことを外に発信すれば、人は、かなりにぎわいのある祭りなんだと来ますから、来たときに大通りもすかすかとか、それじゃ、何だよ、これはということになって、私は逆効果になってしまうと思うんです。ですからいろいろな観光事業をやるのは結構なんですけれども、一つ一つ戦略を持ってやらないと、ただ毎年毎年補助金の垂れ流しということでは、川俣市長が言う財政削減はなかなかできていかないと私は思いますので、その辺のところも言うまでもなく、市長はおわかりかと思うんですけども、切るべきものは切る、必要なところには大胆に逆にお金をかけていく、それには戦略を持ってやっていくというようなことを、ちょっと生意気のようにですけども、提言をいたしたいと思います。答弁は結構でございます。

○議長（渡辺健寿） 13番沼田議員。

○13番（沼田邦彦） 新年度の予算議会でありますので、予算全体に関しまして1点、各課にわたりまして7点伺います。

まず最初に総括的に、川俣市長におかれましては、初めての予算編成となります。標準財政を目指し、減らすべき削るべき予算が逆に若干膨れてしまいました。行政の継続性に鑑み、予算編成に当たりまして、相当な心の中での葛藤がおりになったかと思われまます。予算編成後

の率直な心境を伺います。

次に学校教育課、83ページ、適応指導教室費、心の教室相談員活用事業費とありますが、学校内で学習障害に対応、適応できる予算づけとなっているのか伺います。

次、89ページ、文化財保護費、ジオパーク構想に約1,000万円計上されておりますが、今後何年度の再申請を目指して取り組んでいくのか伺います。

次、91ページ、スポーツ関係、スポーツ推進委員活動費、スポーツ指導員活動費、国体開催運営事業費がそれぞれ計上されておりますが、とちぎ国体に向けた指導者の育成、これらを含めた予算づけとなっているのか伺います。

次に、那須烏山市と密接な関係にあります社会福祉協議会、商工会、観光協会、それぞれ昨年に比べますと予算が削減されております。削減をするに当たりましての理由がありましたら、お伺いいたします。

次に、中山かぼちゃ、農政ですね。同僚議員からも質問がありました。去年は取り組んだけれども新規就農者には至らなかったと答弁がありましたが、その上で、ことしも予算を計上しているわけですから、ことしこそは新規で何人の目標を目指して取り組んでいくのか伺います。

次に、106ページ、新規で計上されておりますが、骨髄等移植ドナー支援事業奨励金21万円とありますが、どのような事業内容になっているのか伺います。

最後に、放課後児童クラブ整備費2,168万円が計上されておりますが、どのような整備内容となっているのか、また学校側との連絡、協調関係に問題はないのか伺います。

○議長（渡辺健寿） 川俣市長。

○市長（川俣純子） では、初めての予算編成について、私としましては、今までも皆さんと同じように議会で質問する側でした。それが今度自分が編成する側になりましたので、もう少し削れるものはあるのかなと思っていたものも、削れなかったり、理由を聞くと、両方からの理由によっては削りにくいもの、それともどうしても削れないものというのがあることが細かくわかりました。その中で、今回予算が思ったより上がってしまったのは、いろいろな県とか国からのパイプ的なトンネル的な予算がかなりありまして、実際の予算のうちで使うものではないんですが、通るだけでも歳出になってしまうというのが出てきていることを改めて多いことがわかりました。そういう意味で、かなり今回の予算編成のおかげで私自身は金額に対しての勉強をさせていただいたなと思っております。

それを踏まえて、削減したことに対してクレームがいろいろ来まして、副市長などは一番かわいそうなほどクレームが来まして、直接私には連絡が来ず、本当に御迷惑をかけたのかなと思います。約束どおり削れるものは削るということで決めましたので、正式な基準というのがあるわけではないのですが、ここまで人件費を上げる必要があるのか、ニーズが要るのかと

か、いろいろな検討をさせていただいて、削った部分があります。後でまた詳しく発言があると思いますが、いろいろな公社とか、観光協会とか、そういうところは多少削って皆さんにもう少し諮っていただきたいなと思ひまして、削減させていただきました。それでもどうしてもできないようだったら、補正というので考えていきたい、ただ、できましたら、ぎりぎりの金額でやっていただいて成果を上げてほしいなというのが、変な意味での親心だと私は思っ、今回は厳しくさせていただきました。

○議長（渡辺健寿） 岩附学校教育課長。

○学校教育課長（岩附利克） それでは、83ページになりますが、適応指導教室についてまずお話しさせていただきます。

適応指導教室につきましては、那珂川町との共同事業ということで行われているものでございまして、現在レインボーハウスというような呼び名で行っております。その施設につきましては、不登校児を対象に行っている場所ということで、例年ですと、10人弱程度毎年、ことはまだ4人ということで、今少ない状態でございますが、そういう状況でございます。

また、その下にあります心の教室につきましては、今結構ストレスがたまっている方が多いというようなことで、その相談員ということで配置させていただいているものです。1名配置ということで、半日90日ということで配置させていただきます。それ以外にでも、実は学校へ行きますと、発達障害的な児童生徒さんもたくさんいらっしゃいます。その人たちについては、今1年生に対しては各クラスに非常勤講師を配置している、また2年生については生活支援員を配置しているなど、市としてはできる限りの支援というものはやっていきたいと考えております。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 糸井文化振興課長。

○文化振興課長（糸井美智子） ジオパーク構想推進事業で、ジオパークの協議会の認定申請ということでございますが、昨年12月に、ジオパーク推進協議会を開きまして、その中で決定された方針といたしましては、那須烏山市の少子高齢化による人口減少や厳しい財政状況を直視し、ジオパークの理念を踏まえつつ、頻繁にジオパーク構想の事業の見直しを図りながら、長期的な視野に立って正会員への登録を目途に活動を続けていくということでございます。これは、さきに申請しましたが、その結果といたしまして、本市のジオパーク構想につきましては、とても準備が整っていないという御指摘を受けましたので、着実な準備を進めていきたいということで、実際の申請時期等については、いつということはまだ言える状態ではありません。

○議長（渡辺健寿） 柳田生涯学習課長。

○生涯学習課長（柳田啓之） 私からは、91ページ、スポーツ推進委員活動費、スポーツ推進員指導員活動費、国体開催運営事業費、この3つについて、国体開催に向けた指導者の養成費が含まれるかということは、競技に対して選手を教える指導者ということによろしいでしょうか。（「指導員」の声あり）指導員、それらにつきましては、県のアーチェリー協会でも育成計画を昨年度からつくりまして、アーチェリー協会でも順次行っているところでございまして、市としてアーチェリーの指導者を養成するというような事業費は含まれてございません。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 稲葉健康福祉課長。

○健康福祉課長（稲葉節子） 先ほど社会福祉協議会の補助金130万円の減額についてということでございますけれども、こちらは、財政状況が厳しい中で財政担当等とも話しまして、もう一度事業の見直し等をして、補助金のあり方等を話し合っ、そちらの金額に決めていきました。

あともう一つ続いて、骨髄ドナーについての質問があったと思うんです。そちらを先にお答えさせていただきたいと思います。

こちらは骨髄移植を普及するという目的もありまして、県で平成29年4月から栃木県骨髄等移植ドナー助成事業補助金というのができました。その中では、ドナーとなった方が検査に要した日数に掛ける2万円、それから事業所が1日につき1万円、ドナーが通院に要した日数掛ける1万円ということで、その金額の2分の1を市で負担するというようになっております。

○議長（渡辺健寿） 石川商工観光課長。

○商工観光課長（石川 浩） 商工会と観光協会の補助金の削減でございます。商工会につきましては、残金等を見ながら削減に協力していただいたということで、削減して運営をしていただきたいということでございます。

観光協会につきましては、物産等々の売り上げの伸びが若干見込まれますので、もともと補助金は少なくていいよということで要求がありましたので、その金額で措置してございます。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 菊池農政課長。

○農政課長（菊池義夫） 中山かぼちゃの見込みについてでございますが、高く予算は新規2名、拡大2名という予算づけをしております。それに近づけたいと、努力したいと思います。

○議長（渡辺健寿） 神野こども課長。

○こども課長（神野久志） 放課後児童クラブの施設整備についてということでお答えしたいと思います。

大きく分けまして烏山小学校南校舎への移転の関係の改修工事費で1,950万円、そのほ

かこちらの学童で使う備品類ということで、218万2,000円を見ております。なお、工事費につきましては、平成29年度の補正予算で委託料を認めていただきまして、現在その最終段階ということで取りまとめ中でございます。なお、工事費と庁用備品については、国の補助金を受けてということになりますが、特に工事費につきましては、補助の対象となるもの、ならないものがございますので、新年度の県との協議次第で若干その辺は変わってくるかと思っております。改修の内容につきましては、1階部分の1教室の床部分の改装や2階にあります多目的室という広い空間があるんですが、そちらの間仕切り、それから、そこには空調設備がないものですから、そちらの新設等を見込んでおります。庁用備品につきましても、基本、今のこども館で使っているもので利用可能なものは引き続き利用して、不足するものを購入するという方向で考えております。

それと2点目の小学校側との協議経過はどうなんですかということについてなんですが、これにつきましては、年度当初から烏山小学校の校長先生、教頭先生の御協力、御理解のもと、学校教育課や都市建設課の関係職員、それから委託法人の野うさぎさんと、十分にその年度当初からの運営のあり方や細かい部分での調整、それから今回の設計についても、その内容をよく話し合いました、理解していただいておりますので、今後も必要に応じて工事の部分、それから実際の新年度の移転の部分でも同様に進めたいと思っております。

○議長（渡辺健寿） 13番沼田議員。

○13番（沼田邦彦） 一通り答弁いただきました。市長の意気込みをお伺いしました。揺るぎない信念を持って邁進していただきたいと思っております。

次にレインボー、あと心の教室の相談員ですが、学校の内部で学習障害の問題が起きているというか、現状があると思っておりますので、予算に組み込まれていなくても、できる対応をぜひきめ細やかにしていただきたいと思っております。

ジオパーク、了解いたしました。ぜひ年度も定めて頑張ってくださいと思います。

スポーツ関係も、市としての取り組みはないということで、了解いたしました。商工会、社協、観光協会の削減の状況は理解いたしました。中山かぼちゃ、2名実現に向けて頑張ってくださいと思います。

骨髄等移植ドナー、了解いたしました。放課後児童クラブも内容はわかりましたので、よく学校側と調整を密にして進めていただきたいと思っております。

以上です。

○議長（渡辺健寿） ここで休憩いたします。

再開を午後2時20分といたします。

休憩 午後 2時09分

再開 午後 2時19分

○議長（渡辺健寿） 休憩前に引き続き会議を開きます。

ここで、先ほどの滝口議員の質疑について学校教育課長より追加答弁があります。

岩附学校教育課長。

○学校教育課長（岩附利克） それでは、先ほど滝口議員からの質疑で漏れていた部分を述べさせていただきます。

サタデースクールの皆勤賞というか、来た方ですが、小学校につきましては78人のうち26人です。33%でございます。中学生が108人のうち43人ということで、40%でございます。

もう一つ、4キロ以上で通常ですとスクールバスという方の中で、自転車で通学している方でございますが、南那須中学校は、全体が245名おりまして、そのうち45名が4キロ以上の自転車ですね。あと、烏山中学校は、全体で405名のうち10名でございます。合わせまして55名ということになります。

○議長（渡辺健寿） 14番樋山隆四郎議員。

○14番（樋山隆四郎） 概要の順番で2ページの雇用の確保、地域おこし協力隊事業費1,800万円近くある。地域おこし協力隊というのは大体3年ぐらいで何とか片をつけようという話だが、今どういう状況になっているのか。恐らくことは2年目に入ったと思うんだけれども、本来ならばこの人たちは、那須烏山市に定住しなくても、何かの形で縁を持っていくと、そんな形で地域おこしという名目でこの予算を計上したんだと思います。その辺の説明ですね。

それと今度は3ページ、商工業の振興で、先ほど小堀議員が言ったように、空き家対策ということで、これも一般の空き家じゃなくて、ここに書いてあるのは出店ということなんです。そういう店は早く言えば幾つできて、それで今どういう営業をやっているのか。

それから今度は企業誘致、これが1億9,200万円、何でこんなに企業誘致にかけるんだかわからない、情報をとるためとか言ったって、今まで企業誘致でしっかりしたものが来たことがあるのか。全くこんなものに1億円もかけるんだったら、これはやめた方がいいんじゃないのか。やっていれば何とかなるなんて思っているけれども、やったってだめだよ。逆に撤退すると言う企業が出てくるかもしれないよ。企業誘致したって若者がいないんだから、労働者が。これではひどいだろうな。企業誘致は、その辺で太陽光と言ったけれども、太陽光だって今大変だから。今まで四十幾らだったのが18円になっちゃうんだよ、キロワット。ぎりぎりですべて赤字だって。そんなことをやって、今度最後はどうかといったらば、あの施設は

会社が倒産してそのまま逃げちゃうんだよ。山を切り開いて、あそこに早くいえば施設が残されてどうするんだと、耐用年数が来たら発電力なんかなくなったものをあそこの広大な敷地にそういうものをやられていいのかということなんだ。しっかりした企業が来るなら構わないよ。雇用の創出になるとか、こういうものに対して、早く言えば市はどう考えているんだ。

それからもう一つは観光。次のここにちょっとわからないのがあるんだよ。DCって何だい、これ。全然理由がわからない。DVならわかるよ。DCなんてわかりはしないよ、こんなもの。この説明。

それともう一つは、4ページ、予算規模、これで一般会計はふえているんだよね。特別会計が減っているんだよ、7億円ぐらい。一般会計は何でこういうふうにふえるの、その辺の説明。

それから5ページ、自主財源と依存財源の問題、自主財源が38億8,000万円ぐらいしかないんです。それで依存財源が74億3,000万円、この問題は誰も解決できないんだよ、前の市長もそうだし、これからその自主財源をどう確保するかという問題に関しては、どういう考えを持っているのか、あるいは方向性を持っているのか。固定資産税は上げられないからね。それで人が減っていくんだから、所得税は減っていき放しだ。減るものばかりで、ふえるものがないんだよ。どうして財源を確保していくのか。

それと、今度は依存財源は、これはどうか、これも減らされるんだよ。ここでは1億円ぐらい減る、だけれども、1億円ぐらいふえているんだよ、自主財源は。行って来いなんだよ。だけれども、依存財源はもっと地方交付税を減らされるからね。1億円どころじゃないからね、毎年毎年減ってくるんだから。だからその辺の合併算定替で、これは早く言えばどのくらい減るかと言ったら、5億円か6億円と言っているけれども、もっと条件は違うからね。合併したときは3万3,000人もあって、そして学校もあった、地方交付税の財源としてカウントされるものが多かったけれども、今、逆に減らされているんだよ。学校は統廃合するし、人口は減るし、そうして働く生産労働人口も減っていく、市税も減る、こういう状況の中でどうこれを解決しようとするのか。いや、誰も解決できなかったんだ、市長だって、前の市長だって。だから俺は言っているんだよ。水力発電でもやれと。掘抜からあそこからだって、幾らでも、早く言えば少しでもできるんだからね。那珂川のいろいろなところから揚水、西の原用水だって揚げっ放しで、あそこに水力発電をして、そこの電気を売って、そうすれば、ある程度は費用が安く上がるだろうというんだよ。そういうものに対する投資というものはいいと言っているんだよ。

それで、これから先また行きますが、その裏、ここに性質別の歳出と、こういう中で消費的経費、どのくらい消費的経費があるかと言ったら、113億円のうちの100億円だよ。100億円が毎年毎年この市から消えていくんだよ、予算の中から。投資的経費というのは、

幾らあるかといったら、6億5,000万円しかないんだよ。投資的経費というのは、今の人が全部払わなくていいよと、そのかわり橋でも道路でも、何年か先の人まで払うということを考えて、耐用年数に合った借金をしていい、ローンを組んでいいよというのが市債なんだよ。だからこういうものは必要なものは、それは財産として残るわけだから、ここに。ところが消費的経費というのは、あっという間に毎年消えていくんだよ。こんなもの、財政なんか豊かになるわけなからうと。

さっき言ったときに、久保居議員が質問したけれども、中山さんがつくった資料を私としては借りるけれども、今、那須烏山市というのは、1人当たり、これは予算が114億円、平成28年度。そのときに1億円しか変わらないんだからね。そのときに1人当たり42万8,000円、矢板市は幾らかといったらば、37万8,000円、それでこの人口に合わせてやったらどうということになるかという、13億4,000万円も減らさなくちゃならないんだよ。矢板市と同じにするには。高根沢町だってそうだよ。84億5,000万円だよ。高根沢町から比べたらば、30億円高いんだよ。それだってここの人たちはサービスに対して満足しているかといったら、満足していないんだよ、不満ばかり。もっと金をくれと。益子町を基準にした場合には、25億2,000万円、県平均だって7億7,500万円、これほど高いんだよ、ここは。財源がないじゃなくて、財源はほかの市町村から比べたらとんでもなく多いんじゃないのか。これをどうにかしなくちゃならないというのは、今言っている消費的経費なんです。これをどう抑えるか。これがわからなければ、いつまでたたって投資的経費に回らないんだ。だからその中で今、補助金、負担金、分担金と、補助金もふえているんだからね。減っているのは、これはなぜかといったらば、特別会計だけで7億円も減っているんだよ。だからこの辺のところをどう調整していくか。

確かにやるときは楽だよ。みんな、くれと言え、はいよって。うちだってそうだろう。子供がいれば、お父ちゃん、これ欲しい、あれ欲しいと、いいよとやればいいよ。それだけの財源が財布の中にあれば。なければ借金するんだろう。それで今度は減らしたらばどうということになるかという、むくれ出す。市民だって同じだ。何で早く言えば減らすんだと、今までくれたのに。

これからは県平均の7億7,000万円近くを減らすといたって、容易じゃないからね。消費的経費を減らさなくちゃならない。今まで補助金だ、はい、あげます、あげますと言っていたけれども、どうして減らすんだ。それにはよほどの説明能力がなければ納得してくれないんだよ、みんな。不満ばかり出てくるんだ。

せつかく市長は、各都道府県の全国平均のどれだけ必要なのかという、87億円ぐらいなんです、この人口だと。そのぐらいまで30億円近く減らすと言ったけれども、今、国が大

変だと言うと、それはそうだろう。ふやしてもらえないんだ。どうしたって逆にふえちゃうんだ。

だからこういう問題は、答弁じゃなくて、今必要なのは何かといたら、ちゃんと減らすときでも、ふやすときでも説明能力、皆さんが納得できる説明をしなければだめだというんだよ。ただ勝手にキャブ制なんかしくんじゃなくて、その団体にはこういう事態で、今、市の財政は非常に厳しいんだと、ほかの自治体だってもっと厳しい財源でやっているんだよ。だからこの問題だけは何とか勘弁してしろと、納得してもらわなければどうしようもないだろう。

だからそういうものを、これからどんなふうにしてそれをやるのは今度課長だからね。前面に出すのは。市長が一々説明している、そんな時間、余裕はないんだから。ここは課長がみんなそれを説明しなくちゃならない。そうしたら各課長がよほどこの問題に関して真剣に取り組まなければ、予算というのは、ことしの予算はここまで来ているんだからしょうがないよ。1円だって動かすには、それだけの歳入を考えなくちゃならない。それはそれでいいとしても、とりあえずそういう状況だということを知ってもらえばいい。

それと、もう一つは、7ページ、農林水産業費、これが芳賀台地の土地改良の事業の金が減ったというんだよ。前もこれは結構話したけれども、1,200万円も減ったのか。これはどんな理由なんだ。これは非常に結構だけれども、水なんか一滴ももらっていないんだ。本当だよ。だからその辺のところを説明して。大体こんなところだ、俺は。

○議長（渡辺健寿） 佐藤まちづくり課長。

○まちづくり課長（佐藤博樹） それでは、概要書2ページ、雇用の確保、地域おこし協力隊について説明いたしたいと思います。

現在3名の地域おこし協力隊がおります。平成28年10月から1年更新の最大で3年間、したがって、31年9月までが任期の期間として活動しております。現在平成28年10月から雇用ですので、おおむね1年5カ月たっております。この4月以降は、それぞれの隊員も駅周辺に居住スペースを構えつつ、駅周辺の活性化に向けて活動しつつあります。また、現在は市役所まちづくり課に3名の隊員の事務スペースがございますが、4月以降は、駅周辺に活動拠点を移して今後取り組む予定となっております。

今までの1年5カ月の報告については、先ごろ2月23日に活動報告会というのを開催してございますが、まず、1年目は、起業に向けてのイロハを学ぶ研修を1年、その中で本来自分たちが何を目指すべきなのか、それを研究、検討、その方向性が見えてきたので、それらに向かって本格的に移し出すのが、この残りの1年5カ月と考えてございます。

3人おりますが、1人につきましては、飲食をベースにした起業展開、コーヒーカフェ、そういったものを中心としながらの活動、もう一人に関しては、都会の若者がうちの市に入るよ

うな居住スペースをつくって、そこから市内、または近隣の市に活動しながら、そういう居住づくりを、それが仕事として成り立たないかということで検討しております。

そのほかに、いろいろな那須烏山市をイメージしたデザイン関係の製作に取り組んで、そういったものもなりわいの1つにできないかということで動いております。

もう一人につきましては、情報発信という分野で、那須烏山市が市外に入り組むことを目指して活動しております。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 14番樋山議員。

○14番（樋山隆四郎） だからそういう方向が出るにはまだ時間がかかるよ、確かに。デザインなんかはわからない、これを一発当てれば。そういうことでまちおこしをやっているところがいっぱいあるよ。それで成功しているところが。それはわかるけれども、食といたって、どうするんだ。今、那須烏山市で食堂いっぱいあるだろう。それを何とかするというんだね、新しく来た人が、まちおこし協力隊の人が。あとはこっちにいと、それで駅周辺をどうにかする、それはやっているんだから、努力してやってもらった方がいいよ。効果が上がるか上がらないかは、やってみなくちゃわからないもの。だからこれはこれで了解であります。

次。答弁はいいよ。だって答弁しようがなかろうな。実際、まちおこし課がやっているんじゃないんだものね。その人らがやっているんだもの。その人らをここへ呼んできて説明しろと言うなら話は別だけれども、いいよ、答弁は。

次。

○議長（渡辺健寿） 樋山議員。さっき何点か、五、六点質問があったようですので、一通り答弁させてからにしたいと思います。

石川商工観光課長。

○商工観光課長（石川 浩） 3ページの商工業の振興のうち、空き店舗対策新規出店開業費用支援事業費100万円でございますが、こちらの経費につきましては、空き店舗を利用して新規に店舗を出店する改装等の一部ということで、50万円の2件分で合計100万円を予算化しているものでございます。

次に、企業誘致費1億9,264万3,000円ですが、こちらにつきましては、議員御承知のとおり、ほとんどが企業立地奨励金でございまして、条例で決定しているものでございます。内訳としましては、太陽光関係で33社1億7,859万6,000円、太陽光以外では3社829万5,000円、そのほか雇用推進費としまして、3社570万円ということで、太陽光につきましては、平成36年までの期限で交付することとなっております。

あと最後に、DCですが、ディスティネーション・キャンペーンといいまして、ディスティ

ネーションというのは、目的地という意味ということでございます。今年4月から6月まで、栃木県に集中してJRが全国的にPRを展開していただけるということで、栃木県に来てもらおうというキャンペーンでございます。JRがそれを4月から6月の集中期間で栃木県をやっていただける。（「JRが支援してくれるようだが、それで予算は要るのか」の声あり）JRは、PRをするだけなので、栃木県に来ていただいたときの対応については各市町村なり県がやっているものですので、那須烏山市においでいただいたときには、那須烏山市の予算で対応するというものでございます。

○議長（渡辺健寿） 総合政策課長。

○総合政策課長（両方 裕） 私より、概要の4ページから6ページにかけての御質問でございます。

まず最初に4ページ、一般会計総額2億7,500万円ほど増額になっている、その理由でございます。こちらは、それぞれの要因が重なってふえておるんですが、その中でも主な増額要因としましては、私立保育園の園舎改築に対する補助金といたしまして、こちらが2億1,200万円ほどあります。それと、畜産整備補助金が4,000万円弱、3,937万円の増額となっております。さらには先ほど企業立地で説明がございましたように、これについても前年度比5,625万円ほど増額になっているということで、こちらだけを3事業合わせただけでも3億円を超えているということで、そのような重立った要因から増額になったという次第でございます。

続いて、5ページの自主財源と依存財源で、当市は自主財源が県内でも一番低いというようなことで言われてございます。こちらをどう引き上げるかということにつきましては、議員も御指摘のとおり、なかなか難しい、すぐには難しいところではございますが、短期間では難しいところはありますので、そのためには長期的な面ということで、歳入の面からは、これもなかなか難しいんですが、市税、あとは使用料、あとはふるさと応援寄附金等の寄附金の増額を図っていく、それから歳出の面からいうと、抑制を継続して行っていくという、その両面から長期的に行っていかなくちやならないと考えてございます。

続いて、6ページ、消費的経費が9割以上を占めてございます。この削減についても、議員御指摘のように、これは難しい、これは、削らなければならないところは削っていくべきだということで、それには説明することが大切ということでもあります。

今回の平成30年度からの2次総合計画の構想にもございますように、進めていくに当たりますては、市民との対話を重視していくということと、財政の再建といいますか、縮減に努めるということでございますので、今後とも説明能力、御指摘がございましたので、ありましたように、市民との対話を図りながらきちんとしたわかりやすい根拠のある資料等を使いまして、

あらゆる機会を持って説明責任を果たしていく所存でございます。

以上でございます。

○議長（渡辺健寿） 菊池農政課長。

○農政課長（菊池義夫） 芳賀台地の負担金の減額でございますが、償還が平成29年度で終了となりました。そのため1,142万2,000円減額となります。

○議長（渡辺健寿） 14番樋山議員。3回目になりますので、まとめて質問をお願いします。残り少ないですからまとめて質疑をお願いします。

○14番（樋山隆四郎） 畜産振興費、これは大分あるんだよね。だけれども、ここは神明畜産か何か知らないけれども、産出額ではナンバー1とナンバー2だよ、栃木県で。だから振興で何をやっているのか、あれは民間事業だね。民間企業だから、どういう名目でそれを出しているのか知らないけれども、その辺の説明を。

○議長（渡辺健寿） 菊池農政課長。

○農政課長（菊池義夫） 畜産振興費については、平成30年度非常に増額になっておりますが、この事業は、畜産担い手育成事業ということで、市内の畜産業を営む酪農家肥育農家の事業でございますので、神明畜産の事業とはかかわりはありません。

○議長（渡辺健寿） 18番平塚英教議員。

○18番（平塚英教） それでは、私から、当初予算について何点か質問したいと思います。

かなり同僚議員の皆さんから質問がありましたので、おおむね質問しようと思った点が理解はできたところですけども、重なるかもしれませんが、別な観点になるかもしれないので、御答弁をお願いしたいと思います。

私も、この質問の概要書に沿って質問したいと思います。8ページ、先ほども質問のありました放課後児童クラブの施設移転改修事業の内容は、先ほどの説明でわかったんですけども、もともとこれについては、青年の家にこども館をつくって、そこに学童保育なんかをやらなくても小学校の中にやるべきだと、私は10年前から言っていたんですが、やっとそうなったと、こんな感じなんですけれども、それでは、残されたこども館、元青年の家は、かなり老朽化しておりますが、これはどう今後取り扱うおつもりでしょうか。

2点目は、放課後児童クラブ関係の事業と、下に放課後子ども教室推進事業というのがあるんですよね。これはどういうことでこの2つの事業になっているのか、片方はこども課で、片方は生涯学習課となっておりますので、この事業内容の説明をお願いしたいと思います。

3つ目は、健康づくり事業費でございますが、健康マイレージ事業については、前にも説明がありました。その隣に食育推進事業経費等というのがあるんですけども、109万9,000円、この中のそれぞれの事業費の経費をどのぐらいずつに考えているのか。食育事

業の中身について説明をお願いします。

その下の地域自殺対策緊急強化事業費とゲートキーパー養成、自殺対策計画書作成等とありますけれども、これはどのように進める内容なのか説明をお願いします。

9ページに参ります。武道館の設置整備費でございますが、武道館は昨年建ったわけでございますが、ことしは外構工事を4,000万円かけて実施するというところでございます。これについては、いつごろ着工して、いつまでに整備をされるのか、武道館の東側の松と梅がありますけれども、松の木は、松枯れか何か知りませんが、上の方は赤くなっているんですね。だからせっかく向うに持っていったやつを、またこっちに移設をすると思うんですけれども、そのときにそういうことで、せっかく庭園ふう整備されると思うんですけれども、そういう問題が起きないように対策をしていただきたいなと思います。

次に、文化財調査費でございます。烏山城の確認調査というのがあります。これについては、できる限り国の助成をもらって進めるべきだと言っておりましたが、平成30年度はどんな内容で進めるのか、さらには33年に、そのときは平成かどうかわかりませんが、国の史跡の指定を受ける、申請するというような予定だと思いますけれども、30年度から33年度にかけて、どんな確認調査、あるいは調査の整理をして国の史跡の指定を受ける段取りに進めていくのか、その辺の説明をお願いしたいと思います。

次に、17ページから事業別に細かな内容が示されておりますけれども、その中で何点か質問したいと思います。まず、18ページのJR烏山線利用促進事業費22万4,000円、これは、去年予算がなかったのをことしつけたということでございますけれども、先ほど事業内容については説明があったかなと思うんですけれども、昨年度は高根沢町と共同でいろいろな事業を進めたかなと思うんですけれども、ことしは両市町で進める事業はどんなことをやるのか、それだけ説明をお願いしたいと思います。

次に、19ページの一番下です。災害援助資金貸付金償還金というのがありまして、これも去年はなかったものをことし65万2,000円つけておりますが、これは貸し付けていたものを回収するというようなことでよろしいのでしょうか。その中身について御説明をお願いしたいと思います。

次に、23ページ、上から、江川小学校施設整備費、皆無であるものが350万円つけております。次に、小学校就学扶助費、これが皆無なのが77万2,000円、中学校扶助費、これについては、皆無なのが80万6,000円ついておりますが、この中身について説明をお願いします。

最後に24ページでございますが、烏山図書館運営費ということでございまして、これが71.8%減額になっておりまして、烏山図書館施設整備費ということで18万8,000円、

また南那須図書館運営費ということで、皆無のものが5,365万7,000円ついておりますけれども、これはいかなる理由なのか、この3つの関連の説明をお願いします。

屋内運動場管理費というの、烏山体育館管理費が42%減額になっておりまして、そのほか野上体育館、向田体育館、興野体育館、七合体育館、荒川体育館と皆無のものが増額になっておりますが、恐らくこれはほかに振り分けたのかなと思われるんですけども、この関連性について御説明をお願いします。

最後の最後ですが、南那須弓道場管理費並びに烏山弓道場管理費というの、ゼロが43万6,000円、ゼロが4,000円となっております、南那須は43万6,000円ですが、烏山は4,000円、これはどういうことなのか、この辺についての説明をお願いします。

○議長（渡辺健寿） 神野こども課長。

○こども課長（神野久志） それでは、1点目のこども館の後利用についてという御質問にお答えしたいと思います。

これにつきましては、新年度に烏山学童クラブ移転後も、引き続き日中に子育てサロンという形で触れ合いの場を設けている関係から、こちらの移転先とか、そういったものが今後複合的な施設等に可能かどうかというのを検証しながら、12月の一般質問でもお答えしたとおり、市の公共施設の再編整備検討委員会等でも検討して、その施設の扱い方については考えていきたいと思っております。解体するということが当時はお答えしておると思っておりますが、老朽化からすると、それはやむを得ないかなと思っております。

○議長（渡辺健寿） 柳田生涯学習課長。

○生涯学習課長（柳田啓之） 私から、概要書8ページ、放課後児童クラブと放課後子ども教室推進事業費の違いということの御質問かと思っております。

こちらはどちらも国庫補助金対象で、放課後児童クラブについては厚生労働省、放課後子ども教室推進事業費については文部科学省管轄でございます。放課後児童クラブについては、平日、あるいは土曜日、放課後、子供たちがうちに帰っても誰もいないという場合の、済みません、語弊がありますが、保育関係の目的が主でございます。子ども教室につきましては、週1回平日は烏山小学校、そちらで学習指導ですとか、それから体験ですとかをうちで委託してお願ひしてございまして、長期休業中については、烏山地区と南那須地区でそれぞれ公民館で講座を開いて実施している。実施の形態及びお金の出所が違うというところで、対象の児童は同じ児童でございます。

それから、武道館の施設整備費については、詳細については、済みません、都市建設課長から言っていただきますので。

続きまして、24ページ、烏山図書館運営費並びに南那須図書館運営費、これについては、

平成29年度までは図書館運営費として一本化していたものでございます。それをそれぞれの施設管理個別計画等、施設マネジメントの関係上、施設ごとに予算を計上するということになりましたので、指定管理者の委託料について案分して、それぞれ図書館分の運営費として計上してございます。

それから図書館の整備費18万8,000円については、烏山の駐車場の旧資料館側に車どめがついていないので、危ないのではないかとということで車どめを設置する予定でございます。

同じくそのページの屋内運動管理費、これについては、同じ理由でございまして、今までの303万4,000円というのは、屋内運動場全部の経費でございました。それを全部分けたものでございます。

それから、最後に、弓道場管理費、これも武道館と弓道場ということで、それぞれ南那須、烏山で計上していたものでございまして、南那須弓道場については、電気、水道等も全部弓道場で別にメーターでやっております。烏山については、烏山武道館でほとんど使っているということでございます。その差が出ております。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 小田倉都市建設課長。

○都市建設課長（小田倉 浩） 私は、工事を担当している部署としまして、武道館の外構工事について御説明申し上げます。

その前に、今議会初日にいただいた平成29年度の繰越事業として、これから武道館の敷地の西側の擁壁と南側の駐車場の整備、こちらは平成29年の事業を繰り越しして、これから実施します。今回上程しました平成30年度の事業の中身は、武道館の北側の部分の駐車場並びに芝生広場の整備ということです。利用者の利便を図るために、一遍に工事をやらないで2段階で工事をやりまして、年度内に完了ということで目指しております。あと樹木に対しては、工事の支障になりますので、一旦第3地に移転して、それを芝生広場が整備完了後また戻す予定になっているんですが、議員御指摘のように、生木で生き物なもので、その辺これから専門業者と打ち合わせしながらやっていきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（渡辺健寿） 稲葉健康福祉課長。

○健康福祉課長（稲葉節子） 健康福祉課からは、概要の8ページ、健康づくり事業費の中の食育推進事業についてということでしたが、この健康づくり事業の中には、健康マイレージとか、歯科の事業等も入っております。食育事業については8万4,000円、食育推進をする食生活改善推進員さんの養成のためのお金、それから親子で料理教室をするための費用、それから健康福祉祭り等で食育を普及する等の金額が入っております。

それからその下の自殺対策の強化事業についてでございますが、この中にはゲートキーパーといって、人の話を聞くというような体制をつくることで自殺を予防するというので、そういう養成をするというお金に追加しまして、市町村で自殺対策の計画を立てるとというような事業が新年度でございまして、その費用が10万円ほどございまして、県の補助を受けるということで3分の2は補助を受けられるということで計上しております。

そのほかに19ページ、災害援護資金貸付金の償還金でございますけれども、平成29年12月から、大震災の災害の援護資金の返済が始まるということになっているわけなんですけど、もっと早く繰り上げて返上したいという方が3名ほど出てございまして、県へ繰上返上するための予算ということになっております。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 糸井文化振興課長。

○文化振興課長（糸井美智子） 私からは、9ページ、文化財調査費のうち、烏山城跡の調査に関するものについてお答えさせていただきます。

まず、こちらの事業は国庫補助を受けてということでございますが、国庫補助で49万8,500円を歳入として予算計上しております。それに対する該当事業費ということで997万円を見込んでおります。これは国庫補助2分の1ということでございます。

ただ、さきに言っておりますけれども、国の予算づけの内報では、これは7割ぐらいしか今のところ来そうにないという情報もございます。

それで、国史跡の指定に向けた取り組みの内容でございますが、まず、今回の調査及びその国指定の申請に向けた計画を平成28年度から組んでおります。ことしは西城の平面確認調査、それから遺物の実測等をやっております。結果的には今のところ出土品がまあ出てきてございまして、これの整理作業等が入っております。30年度に向けては、中城の平面調査ということをご予定しておるところなんですけど、烏山城の関係でお願いしております調査指導委員会は、各界の専門家の方6名で組織しておりますが、その皆さんの意見、指導のもと、もう少し西城に組み込まないというような御意見もありましたので、西城、中城をあわせて、もしくは西城にもう一度という形になると思います。このほかに測量調査を入れていくということでございます。

それで平成33年度には申請したいと考えておりますが、冒頭申し上げたとおり、補助金のつきが悪いところがあるので、ちょっと心配なところはあります。

○議長（渡辺健寿） 両方総合政策課長。

○総合政策課長（両方 裕） 私からは、まず、御質問がありました18ページのJR沿線利用促進事業費22万4,000円でございますが、平塚議員御質問の件は、JR沿線協議会

の高根沢町との連携事業というなお話でございましたので、こちらにつきましては、先ほど渋井議員から質問がございましたように、職員のJR烏山線の回数券を購入して利用向上を図っていくという事業でございまして、JR沿線協議会につきましては、前の17ページの下段にございます烏山沿線まちづくり推進事業費でよろしいでしょうか。こちらの事業費が400万円ということで、高根沢町との協議会に対する負担金ということで、高根沢町も400万円ということで、総事業費800万円の事業を行っていくということでございます。

沿線協議会自体の事業が、平成28年度、29年度、30年度という3カ年を迎えます。目的としましては、今まで行ってきた事業をさらに効果的に進化させていくということで、具体的な事業といたしましては、まず、今年度、協議会のホームページを作成してございますので、こちらを生かして、さらに広域のプロモーション利用促進に向けてと広域地域のプロモーション活動を行っていくということでございます。

あと2点目が、これは今年度実施したんですが、JR東日本の事業であります駅からハイキング、これの学生版ということで、烏山高校と高根沢高校生がそれぞれ企画したものを2回実施してございます。200人ほど参加があったんですけども、これを継続して30年度も行っていくということですね。

3点目としましては、広域連携の自転車のサイクルマップを今年度作成しましたので、これを活用いたしまして、そういったサイクルイベントを実施していくということでございます。

さらには今年度、小冊子をつくりまして、JR東日本管内の主要な駅に無料で配布しておりますので、こういった形で広域プロモーションをさらに実施していくということでございます。

あと、広域連携のマルシェ、こういうようなものを行っていくって、次年度以降も広域連携が継続できるような事業展開を図っていくということでございます。

以上でございます。

○議長（渡辺健寿） 岩附学校教育課長。

○学校教育課長（岩附利克） 私は、23ページになりますが、まず最初に、江川小学校施設整備費350万円でございますが、これにつきましては、老朽化してちょっとふぐあいが生じたということで、放送設備の改修工事を予定しております。

それと、小学校就学扶助費、それと中学校就学扶助費でございますが、これは平成30年度から新入学児童について年度前に支払うというようなことになっておりまして、31年度の新入学児童に対する入学準備金という形で支払う予定をしているものでございます。

○議長（渡辺健寿） 糸井文化振興課長。

○文化振興課長（糸井美智子） 先ほどの烏山城関連の質問で、私は調査のことだけしか特化して申し上げませんでした。申請に向けてのその他の流れということでございますので、改

めて御報告いたしたいと思います。

まず、調査をもとにいたしまして、報告書を平成32年度までにつくるということが1つあります。またさらに史跡申請の準備ということで、地権者の同意が得られなければならないということがありますので、地権者の方への説明などを進めていき、さらに環境の調査なども進めていくということになります。さらに現場の調査のほかに文献等からの調査も進めつつ、石垣の部分についても調査しなさいという先ほどの指導員の指示がありますので、そちらにも取り組まなければならないとなっております。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 18番平塚議員。

○18番（平塚英教） おおむね理解したところですが、最初のやつ、学童の放課後児童クラブなんですけれども、一部の利用者というか、その保護者なんですけれども、子供たちのやりとりの中で、かなりじゃれ合っているというか、そういうのが見られるんですけれども、そういうものを放置しているところもあると聞いております。したがって、指導資格とか、いわゆる指導員としての資質や能力はどうなのかなということを知りたいんですけれども、その辺は、簡単に言うと、そういう中でけがをされたり、いろいろ問題が起きても困りますので、行政の側からそういうような問題が起きないように、きちんと今後指導しなさいということで指摘していただきたいんですけれども、ぜひそれをお願いしたいと思います。

あともう一つは、食育なんですけれども、これは子供たちに推進するということだと思うんですが、予算のつけ方が非常に少ないような気がするんですけれども、学校給食の食材をなるべく地元の農産物を使ってやっていただきたいと思うんですが、これは要望です。そういうことです。

終わります。

○議長（渡辺健寿） 神野こども課長。

○こども課長（神野久志） 正式な名称は私もあれなんですけど、指導員という形で各クラブ、サポートも含めて二、三名ということで配置されています。必要な研修は受講されていて、資質の向上に努めておるとは思うんですが、今、議員から御指摘を受けました点については、委託法人を通じて再度徹底をするようお願いしたいと思っています。

○議長（渡辺健寿） ここで暫時休憩いたします。

再開を午後3時25分とします。

休憩 午後 3時14分

再開 午後 3時24分

○議長（渡辺健寿） 休憩前に引き続き会議を開きます。

15番中山五男議員。

○15番（中山五男） 平成30年度の予算の概要から、私は19項目ほど前もって執行部の皆さんには通告をしております。その中から何点か同僚議員の皆さんが質問していただきましたので、その部分は省いて質問させていただきます。

初めに、市長から御答弁をいただきたい点から申し上げたいと思います。

まず1点目は、樋山議員さんのほうから先ほど質問があったところなんですが、平成30年度の当初予算、予算概要を見ますと、選択と集中の基本的な考えのもと編集したとありますが、前年度予算を2.5%、2億7,500万円ほど上回ってしまったんですね。先ほどの答弁によりますと、結局トンネル的な予算があるんだと。国庫補助金は2億4,000万円ほどありますから、それをしますと2億7,000万円ふえても、2億4,000万円がこのトンネルの補助金ということで、差し引きゼロに近づいてくるんですが、それにしても私は川侯市長には予算削減について大いに期待をしていたところですが、残念ながら目立った削減がなかったということは、私も極めて残念であります。

そこで、2点目に挙げています川侯市長の政策的な事業というのは何なんでしょうか、今回の中で。特に予算概要の11ページを見ていただきますと、11ページの下側に新規事業というのが載っております。そこに新規事業が15事業ありますが、金額にしますとおよそ5,900万円ほど載っておりますが、これが川侯市長の政策的な事業なのかについてまずお伺いをいたします。

3点目は、平成28年度決算では滞納総額が7億5,624万6,000円繰り越しております。その徴収方法について、各担当にいかなる指示をされているのかです。これは全部の課が主なんですが、各課にわたっております。この状況についてお伺いします。

4点目です。2ページには、企業誘致にはトップセールスを含めた積極的な活動を展開すると。これは市長みずからの思いではないかと思いますが、ならば現在、誘致可能な企業はあるのかなのか。全く何もないんだが、これからトップセールスで開拓していくということなのかどうかお伺いいたします。

もう1点目、予算項目の5項目めなんですが、3ページの行財政の改革の中で、平成30年度中に公共施設の集約化、統廃合可能などところはあるんでしょうか。今まで統廃合について議会でも話題になっているのは武道館、図書館などがあるわけですが、市長の覚悟のほどをお伺いしたいと思います。

以上が市長に対しての質問です。

次に1点、教育長にお伺いをしたいと思います。教育長2期目の予算となるわけですが、こ

としての教育費の中でいかなる事業に死力を注いだ予算なのか。これをやりたいんだということですね。このことについてお伺いしたいと思います。

以下、7項目以下は担当課長にお伺いをしたいと思います。

2ページに小中学校に校務支援ソフト導入があります。この具体的な金額を見たんですがわからないんですが、これは先生の校務を軽減するのが目的だとありますが、県内の導入状況とその効果をどう見ているのか、これについてお伺いします。どうも学校教育関係は、よその市町村に先駆けてあれもしてやる、これもしてやるということで、過保護なほど教育費にはこれまで投入しています。しかし、反面、学力は全く上がらない。残念に思っています。その辺のところをお伺いしたいと思います。

次、8点目ですが、これは自主財源率ですから、常任委員会の方でお伺いします。

9番目の芳賀台地は先ほどのでわかりました。

8ページにあります10番目の私立保育園の整備支援事業、これは総事業費幾らなのか。その事業費のうち、これもトンネル補助金でここを通過するだけなんだろうが、この補助率と市も幾らか負担するのか。するとすれば、その補助率についてお伺いします。

11点目です。9ページに元気な森づくり推進事業、これは県の補助金が1,059万5,000円あるんですが、これに対して那須烏山の市民も元気な森づくりに関する税金を払っているわけですが、本市民の納税額ですね、これは個人と法人が払っているわけですが、幾らなのか。ここで知りたいのは、補助金額と納税額の差し引きがどうなのかと思ひまして、疑問を持ってお伺いするわけです。

次に、9ページ目に中学生の海外派遣事業493万7,000円、ことしは何人派遣しようとしているのか。それと派遣中学生の選定方法、これは教育委員会の方で選定しているということをお伺いしたので、その方法です。

それと、派遣効果というのが、実際に海外派遣された子供には相当の効果があると思ひますが、それが南那須中学校、烏山中学校の行かなかった子供に対してどのような効果があらわれているのか、この辺が問題だと思ひているんです。これについてお伺いします。

次に13番目、9ページに平成34年国体に向けた事業費が48万3,000円ほど載っています。これはこれでいいんですが、私が聞きたいのは、これからアーチェリー競技を大桶運動公園を整備して国体競技場にするというわけなんです。これらの整備に関して総事業費は幾らかかるのか、そして市は幾らぐらい負担しなければならないのか。これは今、概算しか出ないと思ひますが、それについてお伺いをいたします。

武道館はわかりました。

次に、15番目の質問なんですが、9ページに烏山城築城600年記念事業として990万

7,000円ほど予算計上しております。これは具体的にどのような事業を展開するのかお伺いをいたします。

同じ9ページに、烏山城と長者ヶ平に関する事業1,160万3,000円あります。これらについても効果がある事業なのかどうか。特に長者ヶ平は表に出ているものは何もないですよ。あの畑の下です。一旦は掘り起こしましていろいろと調査研究しましたが、また埋め戻しましたから、誰が行っても今は何も見えません。あそこへこれから何をしようとしているのかお伺いをしたいところです。

次、17点目は10ページのプレミアつき商品券、これはことしも1億5,000万円を売り出すようですが、そのうち市の負担金1,500万円というのは税金から投入するわけです。去年の決算のとき、担当課長の説明によりますと、商品券というのはほとんどが大型店で使われているということなんです。本市商工業者の活性化にもつながるのかどうかですよ。1,500万円の投入効果があるのか、この辺のところを心配しております。

次、18点目は下水道の烏山地区の関係で、これは前もって課長さんから細かいことを聞きました。ただ、これは皆さんにも認識してもらいたいのは、総事業費が53億2,000万円の予定なんだそうです。これは実は市長さんのあたりも受益区域かと思いましたが、そこは除いてしまったらしいんです。53億2,000万円で、完了地域の戸数が1,280戸と見直しているんだそうです。そうしますと、下水道工事のために1戸当たり415万円もかかっているわけです。これは入っても入らなくてもですよ。これほどの多額の公金を投入しているわけですから、これは担当課長さんも市長も加入率については積極的に説得をしてもらいたいと思っています。これは特別、答弁は求めません。

最後の19番目なんですが、水道会計には利益剰余金が2億8,862万8,000円ありましたね。これは平成28年度の決算なんですが、これほどの剰余金があっても、30年度には一般会計から3,953万7,000円ほど繰り出す必要があるのかどうかということです。親元がこれほど苦しんでいるのに、子供は2億8,800万円もの剰余金を抱えている。でも、またこれほど出さなくてはならないのが私は非常に疑問を持っているものですから、このことについてもお伺いをいたします。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 市長のほうから最初の5点ですね。川俣市長。

○市長（川俣純子） 最初の私の政策的事業は何かというのがあったと思うので、まず切れ目のない子育て支援というのを考えていまして、出産するときから子供が生まれ、小学校に上がるまでを切れ目なく、そして小学校に上がってからも医療費とかの子育てに向いているまちづくりと思っています。

2点目は、ユネスコ無形文化遺産、烏山の山あげ行事や烏山城築城600年など地域資源、またはジオパークなどの地域資源を最大に活用したものを地方創生や地域活性につなげていきたいなと思っています。

3点目は、何回も言われていると思いますが、行財政改革の推進、そのために公共施設の統廃合を考えております。それに向けて着手していきたいなと思っていることが政策的事業であります。それに反映したものが、今回予算についているのがあると思います。

また、3番目に言われました平成28年度決算での滞納総額の徴収方法についてですが、法にのっとった徴収方法しかできませんので、それは指示しております。

4番としまして、企業誘致にはトップセールスを含めたところですが、誘致可能な企業があるのかというのは、具体的な企業はありません。ただ、何件かのところで拡張したいとか、そういう話は出てきていますので、そういうところに一生懸命アピールをしていきたいのと、もともとある企業が撤退することがないように進めていきたいなと思っています。

5番目の行財政の改革の中で集約的統廃合など、可能どころがあるかというのは、平成30年度中には今のところ考えておりません。ただ、その計画に向けて進めていきたいなと思っています。

1番目の予算編成において削減できなかった理由は、何人かの方から御質問がありましたが、私立保育園の園舎改築による補助金の支出、それと畜産設備とかの増額、企業立地奨励金も前年よりふえていますので、その3つだけで3億円を超える金額になってしまっておりますので、その辺の影響が大きいと思います。

また、少子高齢化の影響で、いわゆる福祉や医療に対する経費が上がっております。また、介護保険特別会計繰出金や後期高齢者医療負担金、その他私立保育園施設運営委託事業などがふえていますので、前年度よりは1億円ほど伸びてしまいましたことから予算規模が引き上げられてしまったので、3年ぶりの増額となってしまって、私としては不本意ですし、申しわけないと思っております。

○議長（渡辺健寿） 田代教育長。

○教育長（田代和義） それでは、私の方は6番目の教育費の中でいかなる事業に死力を注いだ予算かということで、2期目の予算というお話でございますが、予算を編成する段階では2期目にいけるかどうか全然わかってない状況でありましたので、特段2期目だからという目玉で編成はしておりません。

予算概要の2ページの最初に学校教育の充実ということで2点ほど掲げてありますが、それ以外に継続事業として、まずスーパーティーチャーの育成事業の継続ということで予算を立ててございます。来年度が3年目ということになりますので、1期3年ということで進めており

ますので、福井の方が最終年度ということに多分なるかと思しますので、その集大成と、また平成31年度以降に向けてどのような計画をつくるかということについて考えてまいりたい。

それから、きのう矢板議員の方にお答えしましたコミュニティスクールの準備委員会ということですが、これは新たに来月から学校評議員の中から出していただいて、将来的なコミュニティスクールの導入、そして場合によっては、児童生徒の人数の動向によっては義務教育学校の導入ということも当然視野に入れなければなりませんので、そういった準備を着実に進めてまいりたい。そのような気持ちで予算編成をさせていただきました。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 岩附学校教育課長。

○学校教育課長（岩附利克） それでは、7項目めになるかと思いますが、2ページの小中学校に校務支援ソフトの導入の件ということで、この校務支援ソフトについて若干説明をさせてもらいますと、名簿情報管理、出欠席の情報管理、小中成績の管理、通知表の作成、指導要録の作成、調書等の作成等の支援のソフトになります。

県内の導入状況でございますが、既に宇都宮市、足利市、矢板市、さくら市、上三川町等では導入される予定です。そのほかにも、今、導入予定ということで、鹿沼市、真岡市、高根沢町、本市もそうですが、那珂川町等も導入を予定しております。塩谷南那須教育事務所管内のほとんどの市町が、この業務ソフトを入れていきたいと考えております。効果としては、一番は教職員の負担の軽減になる。また、システム化されることによって、先生が教育事務所管内を異動してもスムーズにそのシステムが利用できるということが挙げられるかと思います。

それと、12項目めの中学生海外派遣事業でございますが、これにつきましてはまず応募をかけまして、申込書を提出していただきます。申込書を提出されたらば、学校教育課の方で作文と面接を行います。その結果、決定をさせていただきます。

派遣の効果でございますが、ホームステイ先のホストファミリーとの交流や歴史文化交流等が行われまして、生徒の国際的な視野も拡大されると。本人自身も勇気や自信を持つことができるようになったという感想も得ております。また、行った生徒は、帰ってきたときは学校祭等で発表する機会もありまして、その席上で行ってきたことを発表したりもしております。また近年、英語スピーチコンテストなども、優秀賞を獲得している生徒たちもたくさん出てきているという状況でございます。（「人員」の声あり）済みません。平成30年度は16人募集でした。

○議長（渡辺健寿） 神野こども課長。

○こども課長（神野久志） 10項目めの私立保育園整備支援関係の点についてお答えいたします。

平成30年度予算を昨年12月に取りまとめた時点の国から示されている基準額に基づく補助基準額のもので総事業費を申し上げますと、2億8,279万2,000円でございます。それで、このうちの国庫負担分が3分の2、金額にしますと1億8,852万8,000円。それから、市の負担補助分なんですけど、こちらにつきましては12分の1ということで、金額は2,356万6,000円です。合わせまして2億1,209万4,000円という予算の額になります。なお、このほか非補助分とか、そういったものを含めまして残りは事業者様の負担となります。

○議長（渡辺健寿） 菊池農政課長。

○農政課長（菊池義夫） 栃木の元気な森づくり県民税の本市民の納税額について、私の方から報告させていただきます。

農政課では納税額等は把握しておりませんが、税務課の方から協力をいただいて情報をいただきました。個人につきましては年額700円ということでございまして、住民税の納税義務者の数、法人につきましては法人の数、それらから概算を出させていただきました。個人は約950万円、法人につきましては均等割の7%ということですから約19万円、合計で約970万円でございます。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 柳田生涯学習課長。

○生涯学習課長（柳田啓之） 私の方からは、アーチェリー競技会場整備等に関する総費用と市の負担金ということでお答えいたします。

大変申しわけございませんが、現時点では概算費用等もまだ出てございません。

設備の費用ですが、当会場となります大桶運動公園につきましては、河川敷のため構築物の設置が制限されておりますことは皆さん御存じのとおりと思います。全て仮設での設置を予定してございます。また、県の方でもアーチェリーを含みましたボート、自転車、馬術、山岳、カヌー、トライアスロンを特殊競技と位置づけまして、施設整備補助金の交付の要綱等を作成してございます。この場合、特殊競技施設については、仮設施設として整備する施設に10分の10以内、知事の認める額で補助要綱が定められています。

御質問の総額でございませけれども、ただいま設置する施設の内容等について県のアーチェリー協会及び中央競技団体と協議中でありまして、そちらの精査、それからどの程度まで整備するかというのは先催県から情報をいただきながら、平成31年度中にはある程度固まるかなと思っています。それから、県でどの範囲まで見てくれるかということがございますので、それに伴って市の負担も決定する予定でございませ。申しわけございません。御理解をいただきますようお願いいたします。

また、施設整備ばかりではなくて、実際の競技運営についても今後、競技運営補助というのがあると聞いておりますので、その要綱等が定まりましたら、それに基づいて運営費等の補助の申請等も考えたいと思っております。

以上でございます。

○議長（渡辺健寿） 糸井文化振興課長。

○文化振興課長（糸井美智子） まず、烏山城築城600年記念事業の内容ということで、こちらジオパーク構想推進事業費の中に含まれております184万7,000円が、その事業費となります。内容は、メインのところでは記念講演とサブイベント等をやるための報償費、ペナントとかのぼり旗とか広報活動に使うもの、それから資料等の印刷費、グッズということで缶バッジなどを考えております。

次に、烏山城と長者ヶ平に関する事業内容、文化財調査費ということでございますが、烏山城につきましては国庫補助を利用いたしまして、主に調査費用でございます。作業員の賃金、調査指導者の謝金、それから測量調査が大きいのがありますので、そちらとかなってきます。

それから、長者ヶ平につきましては、長者ヶ平官衙遺跡の報告書を平成30年度につくらなければいけないというタイムリミットに来ております。そちらの印刷費97万2,000円が含まれております。

また、長者ヶ平の関係について今後、何をしようとしているかということにつきましては、整備基本構想を平成27年3月に策定しておりまして、その中で道路部分、東山道の部分とありまして、その道路部分の活用、フェンスの移設、環境整備等を短期的整備ということで考えてはいるんですが、実施可能などところとしまして、近々ではパンフレットを置く台をつくりたいと考えております。また、既に進んでいるものとして、一部公有地化を図りまして、多目的広場の看板を設置しております。あの辺をちょっと歩いてもらうと、焼き米もまだまだ見つかるような状況でございますので、ぜひ足を延ばして散歩でもしていただければと思っております。

○議長（渡辺健寿） 石川商工観光課長。

○商工観光課長（石川 浩） プレミアム商品券につきまして、市の負担は1,500万円でございます。平成29年度のいわゆる大型店と言われるところの使用率につきましては、65%がいわゆる大型店で使われるということでございますが、逆に考えれば、残りの35%は小売店で使っているということになりますので、本市の活性化にはつながっていると思っております。

○議長（渡辺健寿） 佐藤上下水道課長。

○上下水道課長（佐藤光明） 議員御指摘のとおり、下水道整備には多額の公金が投入され

ておりますので、加入促進に向けまして普及啓蒙に取り組んでまいりたいと思っております。

水道事業会計の繰出金につきましてお答えをいたします。現在の水道事業に統合される以前の烏山の七合地区、平野地区、南那須の北部地区、中央地区、南部地区の簡易水道事業として運営していた時代の借入金の返済に充当するものであります。平成30年度末には烏山の興野地区、向田地区、境地区、境東地区の4つの簡易水道事業を水道事業に統合しようということで今取り組んでおりますので、今度子供がふえるものですから、何とぞ御理解のほどよろしく願います。

○議長（渡辺健寿） 15番中山議員。

○15番（中山五男） もう時間が迫っておりますので、再質問したいところは何点かありますが、これは後日、担当課長さんからお伺いすることにします。

以上、終わります。

○議長（渡辺健寿） 16番高田悦男議員。

○16番（高田悦男） 4点にわたって質問を行いたいと思います。

まず、平成30年度の予算書47ページをお開きください。栃木県議会議員選挙費、続いて那須烏山市議会議員選挙費の予算が計上されております。この中で2013年にたしか法律が改正をされまして、代理投票の場合に今までの補助者、あるいは介護者から、選挙事務関係の職員でなければならないというふうに変わったと記憶しております。この場合にどのようにして憲法でも保障されている投票の秘密が守られるのか、その点についてお伺いをいたします。

2点目は予算の概要書からまいります。9ページ、先ほど中山議員から質問のあった長者ヶ平遺跡の整備等についての事業でございます。現在、先ほど言いましたように、多目的広場でしょうか、私は駐車場かなと思って時々行っているんですが、ただロープが張ってあって入れないですね。ちょっと利用しようかなと思ったんですけども、その辺はどのような扱いをするのか。また、あの部分の整備だけでは長者ヶ平を見に来てくださいということもままならないと思うんですが、これからの整備予定についてもう少し詳しくお聞かせ願いたいと思います。

続きましてはJR烏山線利用促進事業費です。まちづくり課の担当でございますが、10ページの上から大きな2段目になります。同じく11ページに、JR烏山線沿線まちづくり推進事業費として、高根沢町との連携事業費が継続して載っております。このJR烏山線なんですが、私は今、危機的状況にあるのではないかと心配しております。

というのは、JR東日本の管内に66路線あるんですが、その中で乗降客の少なさでは下から20番目です。46位なんです。1日当たりの乗降客は何人かというところと約1,480人です。これが6年、7年と続いております。その点をJRさんは公表するようなお話を聞いておりま

す。つまり2,000人以下の路線については、廃止も含めて存続が危ぶまれるのではないかなと思っております。大体2,000人未満の路線の多くは東北地方に集中しておりますが、JR東日本大宮支社管内ではこの烏山線が唯一の2,000人未満の路線でございます。ですから、市民を巻き込んだ運動をしなければ、存続についても厳しいのではないかなという一部の意見がございます。

去年、「さよならキハ40」のイベントは、たしか3月3日でしたね。あれから1年アキムで運行しているわけですが、乗降客の数は伸びてないようです。ですから、2,000人以上の乗降客をまず確保するというのが、取り組まなければならない最重要課題なのかなと考えておりますが、担当の意見をお聞かせ願いたいと思います。

あと、同じく11ページの市民と共に築く持続可能なまちづくりの中で、公共施設等マネジメント推進事業費523万8,000円、この事業内容についてお聞かせ願いたいと思います。以上です。

○議長（渡辺健寿） 福田総務課長。

○総務課長（福田 守） まず、代理投票の秘密の保持ということでの質問でございます。

代理投票につきましては、各投票所で従事職員2名を選任しまして、1名が記載、1名がその記載が本人の訴えと合っているかどうかという確認ということでやっております。代理投票等が出た場合には入場を制限しまして、代理投票の周りにほかの方を近づけないという配慮をしているところでございます。

ただ、どうしても代理投票をなさる方は、どういう名前を書いていいかということ大きい声で言うてしまう方もいらっしゃいます。そうしますと、立会人の方もそちらにいらっしゃいまして、そういう方も耳にすることができるということがあります。選挙立会人につきましては、各投票所の朝の打ち合わせの中で、投票の秘密の保持については十分指導しているところでございますが、ほかで口外をしてしまったという例も耳にしたところでございます。代理投票記載については職員なものですから、そちらについては十分指導しているところでございまして、そこから漏れることはないかと思っております。

ことし4月には本当に身近な選挙が控えておりまして、代理投票はかなり多くなるのかなという予想もありますので、再度投票に当たっては注意をしていきたいと考えております。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 文化振興課長。

○文化振興課長（糸井美智子） 長者ヶ平関係のことについてお答えします。

まず、ロープが張ってあって入れないというのは、済みません、確認してみます。周りが段差になっているので、そこにロープというんじゃなくて、入り口にロープが張ってあるという

ことですか。（「たしか車が奥まで入れなかったという記憶があるんです」の声あり）そうです。ちょっとそこは確認させてください。済みません。

それで、今後どんなふうにということでございますが、まず基本的には、国史跡になった時点でその部分を指定しまして公有地化を図って、保存・活用を図るといふのを国とお約束しているという流れでございます。

それで、本来であれば、活用方法等につきまして基本計画及び実施計画をつくりまして、その中で周知、活用方法を決めていくということです。ただ、それにはしっかりした財政の裏づけとか、本当に公有地化できるのかという裏づけを持った上で、覚悟を持った計画ということです。机上のものではないということで、当面、整備基本構想の中で短期的な整備ということで国のほうへこれを示しております、それに沿って進めているところでございます。

公有地化につきましては、地権者様の合意が得られない部分があったり、地震の後、地価が下がってということも一つの要因であったようでございます。

先ほどちょっと申し上げましたけれども、東山道の部分につきまして活用は児童生徒等の学習の場として御案内したり、一般にも周知していきたいと考えております。児童生徒への学習の提供というのは既にやっております。また、多目的広場は去年の年度末にでき上がったものですから、今年度はその場所を利用いたしまして、小さい子供さんなどを対象に、一部公有地化した竹林のところの竹を間引きしたものを使って、竹細工をする事業もやりました。ということで、当面は周知活動に取り組みたいと考えております。

○議長（渡辺健寿） 佐藤まちづくり課長。

○まちづくり課長（佐藤博樹） 私からは、JR烏山線利用促進事業の関係についてお答えしたいと思います。

議員御指摘のとおり、JR烏山線は1日の利用客数が少ない状況でございます。当然、JRの中でも廃止路線の一つとして挙がるだろうと考えております。毎年9月に栃木県を中心として要望活動を行っております。その点では利用向上に向けてのSuicaの導入、あとは乗り継ぎ便の増加、またサイクルトレインといった新たな企画ものの導入等々については要望しているところですが、なかなか難しい状況でございます。

ただ、要望するだけで、市全体となって利用向上に向けての取り組みを積極的に行っているかといった点に関しては、若干課題が残るところだと私も考えてございます。市民号や沿線ウォーク、駅からハイキング等々の事業を行いましても、それはあくまで利用する人だけの話であって、市民みずからがそういう姿勢を示す、そういった点につきましては一般質問で渋井議員からもお話があったとおり、いかに那須烏山市がJRに向けてメッセージを残しているか、アピールをしているか、そういったところはもっともっと積極的に見せるべきだと考えており

ます。

まだ公表はできないですが、事業費がかからないようなアピールの仕方というのを今事務局サイドで検討させていただいておりますので、平成30年度にはもっともっと本格的に市民を巻き込んだ事業が展開できるような取り組みを行っていきたくとまちづくり課としては考えております。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 両方総合政策課長。

○総合政策課長（両方 裕） 私からは、概要書11ページの公共施設等マネジメント推進事業費523万8,000円の御説明を申し上げます。

こちらにつきましては、本市の非常に重要な政策課題の一つでございます公共施設の再編整備につきまして、平成30年度は公共施設等マネジメントシステム、これは電算システムでございます。こちらの導入経費と運営費ということでございます。こちらは本市において、29年3月に公共施設等総合管理計画を策定したところでございます。こちらを進めていくに当たりましては、今度は個別施設ごとの計画をつくって推進していくということになります。そちらを進めるに当たりまして、施設カルテという形で施設の利用率とか運用コスト、運用状況等を一括して電算で管理していく、そういう施設ごとのカルテをつくりまして、それぞれの施設がどのようなコストで、耐用年数がどのぐらい、利用率がどのぐらいということをつくって、個別計画を策定していくために総合的に管理していくという形で、30年度からは進めていきたいということで導入を図るものでございます。

以上でございます。

○議長（渡辺健寿） 16番高田議員。

○16番（高田悦男） 順を追って再質問したいと思います。

まず初めの代理投票の件なんですけど、代理投票するぐらいですから、自分では書けないんですね。ですから、口頭か、家族に書いてもらったメモを持つかの2通りかと思うんです。その際、お知らせ版等で、代理投票する方はできれば家族に書いてもらったメモを持ってきてくださいという表示はどうですか。難しいですか。

実は口頭でやった場合に、先ほど課長から答弁があったように、これまでも漏れているんです。誰ちゃんは誰を書いているんだよな。これは本人にとっては大変な苦痛になると考えております。したがって、投票立会人に聞こえないような形でまずはやっていただきたい。もしどうしても音声でやらなきゃならないというときは、そのような配慮をお願いしたいと思います。

次は長者ヶ平ですね。「吹く風を勿来の関と思えども道もせに散る山桜かな」。これは奥州征伐をした源義家の詠んだ句であります。この源義家の奥州征伐のあおりを受けて、長者ヶ平

は全焼させられたと。我々は子供のころはそう教わりました。しかし、よくよく史実をひもといてみると、役所の跡だったということなんです。それが今、定説のようです。

したがって、我々子供のころはあそこは長者ヶ平、つまり長者ヶ屋敷があつて、奥州征伐に行った帰りに焼き討ちに遭ったんだと。それはなぜかという、800人分の食料と800人分の傘をいつときに用意できたんですってね、源義家公の要請を受けて。そのために、こういう豪族をこの地方にのさばらしておいては後々鎌倉幕府のためにならないと。そういう思いで火をつけられたという話は子供のころよく聞きました。

それと違って、史実はまさに怪奇なものですから、子供たちの学習の場にも最適ではないかと思いますが、土地を買収する予算については国からの補助はないのでしょうか。

続いては、先ほどのJR烏山線についての質問ですが、数値ではっきりとJRに訴えるように、1日2,000人以上確保するという運動を起こしたほうがよろしいのではないかなと思います。

4点目の公共施設等マネジメント推進事業費については、電算機を購入するということですね。そうしますと、全ては庁舎内にあるということですか。そして、入力職員がしていくという方法なのでしょうか。それだけをお聞きします。

○議長（渡辺健寿） 福田総務課長。

○総務課長（福田 守） まず、議員御指摘の代理投票の方は必ず紙に書いてというお知らせについては、大変申しわけございません、そちらのほうはできないものですから、なるべく投票の秘密が保持できるように当日の打ち合わせ等、あとは会場レイアウト等を考えていきたいと思っています。

以上です。

○議長（渡辺健寿） 糸井文化振興課長。

○文化振興課長（糸井美智子） 土地の買入れのための補助金はということですが、こちらについては補助対象になります。ただし、この補助を申請するに当たり、まず土地の買収に係る鑑定等を入れて確定して、そして申請して決定をもらって、買収に至るには大体二、三年の年月がかかるというふうに算定をしております。

○議長（渡辺健寿） 佐藤まちづくり課長。

○まちづくり課長（佐藤博樹） 烏山線の存続については、議員から御指摘がありましたとおり、明確に数字であらわせるような形で何かしらの取り組みを行っていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（渡辺健寿） 両方総合政策課長。

○総合政策課長（両方 裕） 公共施設マネジメントシステム、こちらは機械というよりも電算ソフトの導入でございます。こちらにつきましてはソフトを導入いたしまして、今までのデータもございますので、そちらのデータを移行しまして、あと更新等、コスト等は各課で入力をして、各課でそれぞれの持っている施設を管理して、それが庁内全体で把握できるようなシステムを構築するというところでございます。

○16番（高田悦男） 了解。

○議長（渡辺健寿） ほかにございませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（渡辺健寿） ほかに質疑はないようですので、議長において議事を進行し、これで質疑を打ち切ることに御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（渡辺健寿） 異議なしと認めます。よって、これで質疑を終結いたします。

お諮りいたします。ただいま上程中の議案第1号から議案第9号までの平成30年度当初予算については、所管の常任委員会に付託したいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（渡辺健寿） 異議なしと認めます。よって、議案第1号から議案第9号までの平成30年度那須烏山市一般会計予算、国民健康保険特別会計予算、熊田診療所特別会計予算、後期高齢者医療特別会計予算、介護保険特別会計予算、農業集落排水事業特別会計予算、下水道事業特別会計予算、簡易水道事業特別会計予算、水道事業会計予算の9議案については、それぞれ所管の常任委員会に付託いたします。

---

○議長（渡辺健寿） 以上で本日の日程は全部終了いたしました。

次の本会議は3月13日午前10時に開きます。

本日はこれで散会いたします。お疲れさまでした。

〔午後 4時15分散会〕